

科目区分	【修士】心理学専攻科目																																																			
科目名	家族療法・ブリーフセラピー特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）																																																			
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバ-	MP5300																																													
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0																																													
授業のテーマ	家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーについて学び、実践する。また、集団や地域社会における心理支援について学ぶ。																																																			
授業の概要	家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーにおける問題解決や解決構築の理論と技法について学ぶことを目的とする。1970年代より発展してきたブリーフセラピーについて概観し、ブリーフセラピーにおける問題の捉え方、またはその解決、解決の構築などの考え方／哲学について学ぶ。また、事例やロールプレイを通して、技法の実際について体験的に学ぶ。さらに集団や地域社会への支援に関する理論と実践の方法についても学ぶ。																																																			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法について説明できる。【知識・理解】</li> <li>2. 地域社会や集団組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について説明できる。【知識・理解】</li> <li>3. 心理に関する相談、助言、指導などへの上記1および2の応用。【態度・志向性】</li> </ol>																																																			
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際</td> <td>(1) システムの構造と機能</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際</td> <td>(2) 変化の理論</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際</td> <td>(3) 介入の実際</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>ブリーフセラピーの理論と実際</td> <td>(1) 理論的枠組み</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>ブリーフセラピーの理論と実際</td> <td>(2) 変化の理論</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>ブリーフセラピーの理論と実際</td> <td>(3) 介入の実際</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>社会構成主義と解決構築</td> <td>(1) 理論と姿勢</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>社会構成主義と解決構築</td> <td>(2) 質問と会話の実際</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>社会構成主義と解決構築</td> <td>(3) 演習を中心に</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>治療的会話について</td> <td>(1) 治療関係</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>治療的会話について</td> <td>(2) 会話の展開</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>治療的会話について</td> <td>(3) 演習を中心に</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>解決構築における技法論</td> <td>(1) 質問技法の実際</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>集団や組織に対する心理支援について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>地域社会における心理支援について</td> <td></td> </tr> </table>							第1回	家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際	(1) システムの構造と機能	第2回	家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際	(2) 変化の理論	第3回	家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際	(3) 介入の実際	第4回	ブリーフセラピーの理論と実際	(1) 理論的枠組み	第5回	ブリーフセラピーの理論と実際	(2) 変化の理論	第6回	ブリーフセラピーの理論と実際	(3) 介入の実際	第7回	社会構成主義と解決構築	(1) 理論と姿勢	第8回	社会構成主義と解決構築	(2) 質問と会話の実際	第9回	社会構成主義と解決構築	(3) 演習を中心に	第10回	治療的会話について	(1) 治療関係	第11回	治療的会話について	(2) 会話の展開	第12回	治療的会話について	(3) 演習を中心に	第13回	解決構築における技法論	(1) 質問技法の実際	第14回	集団や組織に対する心理支援について		第15回	地域社会における心理支援について	
第1回	家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際	(1) システムの構造と機能																																																		
第2回	家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際	(2) 変化の理論																																																		
第3回	家族療法（システムズアプローチ）の理論と実際	(3) 介入の実際																																																		
第4回	ブリーフセラピーの理論と実際	(1) 理論的枠組み																																																		
第5回	ブリーフセラピーの理論と実際	(2) 変化の理論																																																		
第6回	ブリーフセラピーの理論と実際	(3) 介入の実際																																																		
第7回	社会構成主義と解決構築	(1) 理論と姿勢																																																		
第8回	社会構成主義と解決構築	(2) 質問と会話の実際																																																		
第9回	社会構成主義と解決構築	(3) 演習を中心に																																																		
第10回	治療的会話について	(1) 治療関係																																																		
第11回	治療的会話について	(2) 会話の展開																																																		
第12回	治療的会話について	(3) 演習を中心に																																																		
第13回	解決構築における技法論	(1) 質問技法の実際																																																		
第14回	集団や組織に対する心理支援について																																																			
第15回	地域社会における心理支援について																																																			
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について家族療法関連の専門書にて予習（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：2時間）																																																			
授業方法	講義、文献研究、グループディスカッション、ロールプレイ 講義：該当分野の基礎的な理論について講義を行い、ディスカッションやロールプレイを通して体験的に学ぶ。ロールプレイに関しては適宜、介入し、理論に基づいたカウンセリングの実践に向けて指導を行う。 文献研究：当該領域に関する文献を検索し、与えられたテーマに沿ってレビューを行う。 グループディスカッション：与えられたテーマに沿ってディスカッションを行う。 ロールプレイ：理論に即して実践を行う。																																																			
評価基準と評価方法	学びの姿勢や態度、面接技術の習熟度と理解度、発表や発言の内容などにより総合的に評価する。具体的には、ロールプレイの参加姿勢50%、ディスカッションの内容50%。 ロールプレイの参加度：積極的に参加し、理論的な理解が実践に反映されているかどうかについての確認と評価。 到達目標の1、2、3に関する到達度の確認。 ディスカッションの内容：ディスカッションにおける発言の内容において理論的な理解の適切性や集団や地域社会における心理支援の理解について確認・評価を行う。到達目標の1、2に関する到達度の確認。																																																			
履修上の注意	ロールプレイや発表をはじめ、自発的積極的参加が望まれる。システムズアプローチ、ソリューション・フォーカスト・アプローチやナラティブ・セラピーの専門書を読み、会話のスキルについて自己学習しておくこと。																																																			
教科書	特になし																																																			
参考書	坂本真佐哉著（2019）「今日から始まるナラティブ・セラピー：希望をひらく対人援助」日本評論社 浅井伸彦編著、松本健輔著、坂本真佐哉監修（2021）「はじめての家族療法：クライアントとその関係者を支援するすべての人へ」北大路書房 坂本真佐哉編（2017）「逆転の家族面接」日本評論社 坂本真佐哉、黒澤幸子編（2016）「不登校・ひきこもりに効くブリーフセラピー」日本評論社 日本ブリーフサイコセラピー学会編（2020）「ブリーフセラピー入門：柔軟で効果的なアプローチに向けて」遠見書房																																																			

参考書	
-----	--

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバー	MP5270
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	教育分野の臨床心理学						
授業の概要	教育・学校分野で生じる諸課題について、臨床心理学的理解を深め、チームとしての学校におけるスクールカウンセラーの役割について学びます。 ワークやグループディスカッションを通して各自の考えや理解を言語化し、その内容を共有します。						
到達目標	(1)教育分野に関わる公認心理師等の実践について理解し、説明することができる。【知識・理解】 (2)授業を通して得た知識や理解をみずからの研究や臨床活動に活かし、それについて他者に伝えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション（授業の進め方） 第2回 チームとしての学校(1) グループ心性 第3回 チームとしての学校(2) 集団適応と原子価構造 第4回 チームとしての学校(3) 作動グループと基底的想定グループ 第5回 チーム学校におけるスクールカウンセラーの役割 第6回 いじめの心理(1) いじめの現状と課題 第7回 いじめの心理(2) いじめ問題への臨床心理学的接近 第8回 いじめの心理(3) いじめ問題への対応 第9回 不登校の心理(1) 不登校の現状と課題 第10回 不登校の心理(2) 不登校問題への臨床心理学的接近 第11回 不登校の心理(3) 不登校の終わり 第12回 相互作用からみた教育(1) 思考の発達と相対的貧困 第13回 相互作用からみた教育(2) 特別支援教育 第14回 発表準備 第15回 発表と討議						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：テーマに関連する文献の購読 <2時間> 授業後学習：レポート作成 <2時間>						
授業方法	講義、演習（グループワーク、ディスカッション）						
評価基準と評価方法	平常点（70%）、発表と提出物（30%）により評価をおこなう。 平常点（討議、その他授業への参加・貢献）。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認 発表と提出物。到達目標(1)(3)に関する到達度の確認						
履修上の注意	主体的に考え、表現する努力をしてください。						
教科書	なし						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	グリーフケア特論						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	MP5250
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	悲嘆やトラウマについての基礎知識と具体的な支援の方法を学ぶ。						
授業の概要	さまざまな原因で大切な人を失った者が受ける心理的影響は多岐にわたる。本講義では、悲嘆 (grief) とは何かについて学んだ後、複雑性悲嘆や他の精神疾患との差異について理解を深める。また、実際の事例や視聴覚教材などを通して、グリーフケアやトラウマケアに関する具体的な支援の方法を学ぶ。						
到達目標	(1) 悲嘆やトラウマについての知識を整理することができる。【知識・理解】【態度・志向性】 (2) グリーフケアやトラウマケアについての具体的な支援の方法を学び、実践できるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 悲嘆の基本的理解と症候学的位置づけ 第3回 トラウマがもたらす心理的影響 第4回 支援・介入の実際：個人への介入（悲嘆アセスメント） 第5回 支援・介入の実際：個人への介入（心理教育） 第6回 支援・介入の実際：個人への介入（ロールプレイ） 第7回 支援・介入の実際：個人への介入（悲嘆カウンセリング） 第8回 支援・介入の実際：個人への介入（ロールプレイ） 第9回 支援・介入の実際：個人への介入（自死遺族のケア） 第10回 支援・介入の実際：個人への介入（複雑性悲嘆の治療） 第11回 支援・介入の実際：個人への介入（トラウマの治療） 第12回 支援・介入の実際：コミュニティへの介入（災害後の支援） 第13回 支援・介入の実際：コミュニティへの介入（学校における事件・事故） 第14回 支援・介入の実際：コミュニティへの介入（緩和ケア病棟における遺族ケア） 第15回 支援者のストレス						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：指定された専門書や論文をよく読み、資料を作成する。＜2時間＞ 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する。＜2時間＞						
授業方法	講義と演習、ロールプレイ						
評価基準と評価方法	授業への参加度（40%）と発表（60%）により総合的に評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	・発表者はレジュメを人数分用意し、当日配布すること。 ・発表者には入念な準備を、参加者には活発な討論を期待する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	『心的トラウマの理解とケア 第2版』金吉晴（編）じほう ISBN978-4-8407-3543-8 『悲嘆カウンセリング 改訂版』J.W. ウォーデン（著）山本力（監訳）誠信書房 ISBN978-4-414-41480-6 『「悲しみ」の後遺症をケアする—グリーフケア・トラウマケア入門』角川学芸出版 ISBN978-4-04-651613-8						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	産業・労働心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）						
担当教員	金丸 由佳里					科目ナンバ-	MP5290
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	産業・労働分野に関するさまざまな心理的支援の理解						
授業の概要	産業・労働分野で心理職に関わる複数のテーマについて、基本的な知識を習得いただくとともに、ロールプレイ、プレゼンテーション等を通じて実践的なスキルを身に付けていただきます。講師はEAP（Employee Assistance Program）機関での勤務もしているため、実際の現場で使用されている資料をはじめとした最新の情報をご提供いたします。						
到達目標	①産業・労働分野に関わる公認心理師の実践について説明できる。【知識・理解】 ②ストレスチェックを活用した各種支援、メンタルヘルス研修の企画と実施、ハラスメント相談対応、復職支援対応等の基本的な対応ができる。【技能】 ③各テーマに対する受講生同士での対話や協力を通じて知識を実践へと結びつけ、実務家となる上での自信を身に着けることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 産業領域における臨床心理学 第2回 心理職に関わるストレスチェック関連業務 ①高ストレス者との面談 第3回 心理職に関わるストレスチェック関連業務 ②集団分析結果の解釈 第4回 心理職に関わるストレスチェック関連業務 ③組織長への集団分析結果FB 第5回 心理職に関わるストレスチェック関連業務 ④職場環境改善活動 第6回 メンタルヘルス研修の進め方 ①セルフケア編 第7回 メンタルヘルス研修の進め方 ②ラインケア編 第8回 メンタルヘルス研修の進め方 ③実践編 第9回 産業心理臨床に必要な法的知識 第10回 ハラスメント相談対応の実際 第11回 復職支援の進め方 第12回 マネジメントコンサルテーションの進め方 第13回 キャリア開発支援の進め方 第14回 健康経営・人的資本経営の基礎知識 第15回 組織開発の基礎知識						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：2時間程度 ・manabaに公開される授業の資料に目を通し、知識が乏しい点について下調べしておく ・授業内でロールプレイやプレゼンテーション等の実践を行う場合には、事前に参考図書やHPに目を通したり、資料をまとめたりしておく 授業後学習：2時間程度 ・各回の授業で学んだことを自らの言葉でまとめ、manaba上の小レポートとして提出する						
授業方法	ロールプレイ、プレゼンテーション等を中心とした体験学習形式で進める。一部知識を補うための講義も行う。						
評価基準と評価方法	各授業後の小レポート：40%。到達目標①～③に関する到達度の確認 ロールプレイやプレゼンテーション等のパフォーマンス：10%。到達目標①～③に関する到達度の確認 期末のレポート：50%。到達目標①～③に関する到達度の確認						
履修上の注意	資料はmanaba上に公開しますので、授業中はPC、スマホ等のデバイスで資料をご覧いただくか、必要に応じてご自身の分の印刷にご協力をお願いいたします。						
教科書	教材資料はmanaba上に公開いたします。特定の書籍の購入は不要です。						
参考書	都度、授業内でご紹介いたします。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	社会心理学特殊研究						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバー	MP5190
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会心理学的研究について学ぶ						
授業の概要	雑誌論文を読み、文献レビュー、研究仮説の設定、研究方法、結果のまとめ方、考察の導き方の実際例を理解する。						
到達目標	自らの論文執筆のための文献レビューの仕方を身につける。【汎用的技能】 自らの論文執筆のための社会心理学的研究の知見を得る。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、雑誌論文について、レジメのまとめ方 第2回 文献のまとめ(1) 対人認知 第3回 文献のまとめ(2) 態度、態度変容 第4回 文献のまとめ(3) 認知的複雑性、認知的斉合性理論 第5回 文献のまとめ(4) 対人魅力 第6回 文献のまとめ(5) 意思決定 第7回 文献のまとめ(6) 帰属 第8回 文献のまとめ(7) 集団規範、同調、服従 第9回 文献のまとめ(8) 自己概念 第10回 文献のまとめ(9) 説得、コミュニケーション 第11回 文献のまとめ(10) 社会的比較 第12回 文献のまとめ(11) 社会的交換 第13回 文献のまとめ(12) 社会的アイデンティティ理論 第14回 文献のまとめ(13) 自己開示、自己呈示 第15回 修士論文の作成方法						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：授業で取り上げる文献を読み、要点や質問事項をノートにまとめておく（学習時間：2時間）。 事後学習：授業で学んだこと、今後の課題などをノートにまとめておく（学習時間：2時間）。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	授業内での文献のまとめの発表内容、プレゼンテーション、積極的な発言などの的確性、および授業参加への積極性を評価する。これを到達目標の文献レビューの技能習得、および社会心理学の知見の習得の指標とみなし、平常点100%とする。						
履修上の注意	発表の際には、受講者の人数分のレジメを作成すること						
教科書	なし						
参考書	「社会心理学研究」、「心理学研究」、「実験社会心理学研究」の最近の文献						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	社会心理学特論／社会心理学特論I						
担当教員	土肥 伊都子					科目ナンバ-	MP5220
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	社会心理学の知見について、現代的な研究トピックとアプローチを含めて、学習する。						
授業の概要	大学院生向けに編集された「現代社会心理学特論」の教科書の内容について理解し、議論する。						
到達目標	社会心理学の知見を習得し、かつ、最近の研究の動向を知ることができる。【知識・理解】 自らの専門性に基づき、多職種との間で必要な協力関係を築くことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、指定討論者割り当て 教科書第1章 社会心理学とは何か 第2回 教科書第2章 社会的影響 第3回 教科書第3章 社会的認知アプローチ 第4回 教科書第4章 対人認知 第5回 教科書第5章 ステレオタイプと対人行動 第6回 教科書第6章 態度と行動 第7回 教科書第7章 社会的推論 第8回 教科書第8章 自己 第9回 教科書第9章 無意識と自動性 第10回 教科書第10章 感情と認知 第11回 教科書第11章 行動経済学と社会心理学 第12回 教科書第12章 脳神経科学と社会心理学 第13回 教科書第13章 進化心理学と社会心理学 第14回 教科書第14章 文化の影響 第15回 教科書第15章 現代社会心理学の潮流						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当箇所を予習すること。（学習時間：2時間） 授業後学習：各回の授業内容に関連した文献をmanabaに記載しているので、それを読み自習すること。（学習時間：2時間）						
授業方法	各回の授業範囲の教科書を輪読し、議論する。また、授業内容に関連した内容を補足説明をする。						
評価基準と評価方法	専門である臨床心理学と社会心理学のインターフェイスを理解した上での発表、質疑応答などの的確性、および授業参加への積極性を評価する。これにより、到達目標の自らの専門性と多職種との協力関係を築く態度や志向性、さらに、社会心理学の知識を習得し、理解できていることの指標とみなし、平常点100%とする。						
履修上の注意	教科書を必ず予習すること。						
教科書	「改訂版 現代社会心理学特論」 森津太子 著 放送大学教育振興会 ISBN 978-4-595-14042-6						
参考書							

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）						
担当教員	浅田 慎太郎					科目ナンバ-	MP5280
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	司法・犯罪分野に関わる公認心理師の実践を学びます。 司法・犯罪分野の基礎を理解し、犯罪心理学、司法心理学、臨床心理学、精神分析的観点からの非行・犯罪理解を深めます。						
授業の概要	司法・犯罪領域における理論と支援を学ぶことを目的とします。 とりわけ犯罪を行った加害者の臨床心理学的問題や介入、支援の枠組みについて学びます。						
到達目標	①司法・犯罪分野に関わる臨床心理士および公認心理師の実践を理解することができる。【知識・理解】 ②非行・犯罪を様々な心理学的観点から理解することができる。【知識・理解】 ③非行者・犯罪者の支援について理解し、実践への準備を整える。【知識・理解】						
授業計画	<p>集中講義であり、開講日は以下を予定しています。</p> <p>2021年8月 8日（火） 9:00-16:20（1限-4限） 4回分  同年8月22日（木） 9:00-16:20（1限-4限） 4回分  同年8月29日（火） 9:00-16:20（1限-4限） 4回分  同年9月5日（木） 10:40-16:20（2限-4限） 3回分  同年9月12日（火） 予備日</p> <p>1日目：概要：司法・犯罪分野に関する支援の枠組み（すべて講義）  ①概要  ②司法・犯罪分野に関する支援の枠組み（2）：刑務所等矯正施設  ③司法・犯罪分野に関する支援の枠組み（3）：少年施設  ④司法・犯罪分野に関する支援の枠組み（4）：民間施設</p> <p>2日目：非行・犯罪を心理学的に理解する  ⑤非行・犯罪の心理学について①（発表）  ⑥非行・犯罪の心理学について②（発表）  ⑦非行・犯罪の心理学について③（発表）  ⑧被害者の支援について（発表）</p> <p>3日目：非行・犯罪への実践  ⑨実践（1）：実践の概要（講義）  ⑩実践（2）：実践について（発表）  ⑪実践（3）：実践について（発表）  ⑫実践（4）：予後（講義）</p> <p>4日目：論文を通じたディスカッション  ⑬事例・論文精読（1）：精神分析的に犯罪を理解する  ⑭事例・論文精読（2）：精神分析的に犯罪にアプローチする  ⑮まとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	準備学習：司法・犯罪心理学に関する内容について、履修者で分担し、書籍や論文から資料を作って発表していただきます。 （所要時間：3~4時間程度）						
授業方法	各回のテーマについて講義、ディスカッションを行います。 準備学習からの発表もしてもらいますので、積極的なディスカッションに参加してもらうことを期待します。						
評価基準と評価方法	発表内容や講義内でのディスカッションなどから「認定」を行います。 発表内容：50% 到達目標①から③に関する到達度の確認 講義内でのディスカッション：50% 到達目標①から③に関する到達度の確認						
履修上の注意	4回の欠席があった場合、単位の認定を行いません。						
教科書	購入しなければならない教科書はありません。 事前学習に際しては、図書館の本や論文を使用してください。						

参考書	犯罪統計について：『犯罪白書』『警察白書』 犯罪心理学について：『犯罪心理学事典』『犯罪行動の心理学〔原著第6版〕』『犯罪心理学—行動科学のアプローチ』 司法臨床について：『司法心理療法—犯罪と非行への心理学的アプローチ』『児童虐待・解離・犯罪：暴力犯罪への精神分析的アプローチ』 このあたりがおすすです。興味があれば読んでみてください。
-----	--

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学研究法特論						
担当教員	前期：鳥居 後期：土肥					科目ナンバ-	MP5080
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	4.0
授業のテーマ	心理学の実験および調査研究方法の習得						
授業の概要	<p>基礎系の心理学を中心に幅広い分野から研究例を紹介しつつ、心理学での様々な研究方法について学ぶ。2人の担当者によるオムニバス方式で行う。</p> <p>前半では、心理学的実験で得られるデータを対象とし、統計解析に関する基礎と使用方法についての講義、演習を行う。後半では、主に調査データに対する多変量解析を学び、さらに、実験研究の論文を読み理解する。</p> <p>講義と演習の双方により、実践的な統計運用能力を身に付ける。授業で学んだ統計解析を用いた文献を読み、受講生が発表する。</p>						
到達目標	<p>心理学の実証的検討を行った論文を理解できる。【知識・理解】</p> <p>自らの調査・実験データを適切に統計処理、解析でき、結果を論文形式にまとめ、考察することができる。【汎用性技能】</p>						
授業計画	<p>【第1回～第15回 鳥居担当】</p> <p>第1回 心理学と統計 第2回 尺度と基礎統計量 第3回 度数分布表とヒストグラム 第4回 散布図とクロス集計 第5回 対応がない2条件のt検定（1）基礎 第6回 対応がない2条件のt検定（2）適用例 第7回 対応がある2条件のt検定 第8回 分散分析について 第9回 1要因被験者間計画の分散分析 第10回 1要因被験者内計画の分散分析 第11回 交互作用について 第12回 2要因被験者間計画の分散分析 第13回 2要因被験者内計画の分散分析 第14回 2要因混合計画の分散分析 第15回 論文における解析結果の表現</p> <p>【第16回～第30回 土肥担当】</p> <p>第16回 調査の概要、インターネット調査票の作成 第17回 公開データの二次分析 第18回 合成変数の作成、ファイルの分割、ケースの選択、複数回答 第19回 尺度作成のための探索的因子分析、<math>\alpha</math>係数、確認的因子分析 第20回 尺度作成の論文の発表 第21回 多変量解析の概要、重回帰分析と数量化Ⅰ類 第22回 重回帰分析を用いた論文の発表 第23回 判別分析と数量化Ⅱ類 第24回 判別分析を用いた論文の発表 第25回 論文の解説1）配偶者選択に関する実験研究、データの再構成 第26回 論文の解説2）男性への日傘促進に関する実験研究 第27回 論文の解説3）関下プライミングの実験研究、潜在的態度の測定 第28回 論文の解説4）割り勘問題の実験研究 第29回 心理統計のまとめテスト 1） 第30回 心理統計のまとめテスト 2）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>指示された論文を読み、発表に備える。</p> <p>授業前準備学習：各回授業で扱う該当箇所を予習すること。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：授業内容のレジュメを読み返し、毎回の授業内容を復習し、理解を確実なものにしておく。（学習時間：2時間）</p>						
授業方法	講義、発表、演習を組み合わせた授業						
評価基準と評価方法	<p>授業内での文献の発表、演習時の課題遂行度、研究内容に関する議論への積極的参加を評価する。これを到達目標の心理学の知識・理解の修得、自らの調査・実験データの適切な統計処理の習得、まとめ、考察の指標とみなし、文献の発表50%、演習時の課題遂行度などの平常点50%の割合で評価する。</p>						

履修上の注意	遅刻・欠席しないように心がける。 授業レジュメは、前回までの分も持参する。
教科書	使用しない
参考書	授業中に指示する

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	MP6030
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	臨床心理学の研究						
授業の概要	「臨床心理学特別研究A/B」の内容を発展させ、修士論文を完成させます。						
到達目標	(1) 研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【態度・志向性】 (2) 必要な研究倫理に基づいて、研究を進めることができる。【研究倫理】 (3) 収集したデータを分析し、修士論文としてまとめることができる。【知識・理解】 (4) 研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション（授業の進め方） 第2回 データの収集(1) 第3回 データの収集(2) 研究結果の整理(2) 第4回 データの収集(3) 研究結果の整理(3) 第5回 データの収集(4) 研究結果の整理(4) 第6回 データの収集(5) 成果と課題の整理(1) 第7回 データの分析(1) 第8回 データの分析(2) 第9回 データの分析(3) 第10回 データの分析(4) 第11回 データの分析(5) 第12回 成果と課題の整理(1) 第13回 成果と課題の整理(2) 第14回 成果と課題の整理(3) 第15回 成果と課題の整理(4) 第16回 修士論文の作成(1) 第17回 修士論文の作成(2) 第18回 修士論文の作成(3) 第19回 修士論文の作成(4) 第20回 修士論文の作成(5) 第21回 修士論文の作成(6) 第22回 修士論文の作成(7) 第23回 修士論文の作成(8) 第24回 修士論文の作成(9) 第25回 修士論文の作成(10) 第26回 修士論文の修正(1) 第27回 修士論文の修正(2) 第28回 修士論文の修正(3) 第29回 修士論文の修正(4) 第30回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献購読、討議用資料作成、修士論文作成、発表資料作成。＜2時間＞ 授業後学習：提出物の加筆修正。＜2時間＞						
授業方法	講義、演習（ディスカッション、プレゼンテーション）						
評価基準と評価方法	平常点（40%）、修士論文（60%）により評価をおこなう。 ・平常点：研究に取り組む姿勢。到達目標(1)(2)に関する達成度の確認 ・修士論文：修士論文の内容。到達目標(3)に関する達成度の確認						
履修上の注意	「臨床心理学特別研究A」「臨床心理学特別研究B」の内容をさらに発展させる授業です。授業外時間も積極的に学び意見や質問をしてください。						
教科書	なし						

参考書	適宜紹介します。
-----	----------

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	MP6030
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文を作成する						
授業の概要	自らの関心に基づいて臨床心理学的な観点から研究テーマを設定し、適切なデータ収集とその分析、考察を進め、修士論文を仕上げることを目指す。						
到達目標	(1) 研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【知識・理解】 (2) 必要な研究倫理に基づいて、研究を進めることができる。【研究倫理】 (3) 収集したデータを分析し、修士論文としてまとめることができる。【知識・理解】 (4) 研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：修士論文の作成過程について 第2回 構想発表(1)：発表 第3回 構想発表(2)：ディスカッション 第4回 目次の作成(1)：報告 第5回 目次の作成(2)：ディスカッション 第6回 問題と目的の検討(1)：報告 第7回 問題と目的の検討(2)：ディスカッション 第8回 先行研究レビューⅠ(1)：報告 第9回 先行研究レビューⅠ(2)：ディスカッション 第10回 先行研究レビューⅡ(1)：報告 第11回 先行研究レビューⅡ(2)：ディスカッション 第12回 先行研究レビューⅢ(1)：報告 第13回 先行研究レビューⅢ(2)：ディスカッション 第14回 中間発表(1)：発表 第15回 中間発表(2)：ディスカッション 第16回 方法の検討(1)：報告 第17回 方法の検討(2)：ディスカッション 第18回 データの収集と分析Ⅰ(1)：報告 第19回 データの収集と分析Ⅰ(2)：ディスカッション 第20回 データの収集と分析Ⅱ(1)：報告 第21回 データの収集と分析Ⅱ(2)：ディスカッション 第22回 考察の検討Ⅰ(1)：報告 第23回 考察の検討Ⅰ(2)：ディスカッション 第24回 考察の検討Ⅱ(1)：報告 第25回 考察の検討Ⅱ(2)：ディスカッション 第26回 考察の検討Ⅲ(1)：報告 第27回 考察の検討Ⅲ(2)：ディスカッション 第28回 公聴会資料の作成(1)：報告 第29回 公聴会資料の作成(2)：ディスカッション 第30回 まとめ：総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には各回の報告用の資料を作成すること。＜2時間＞ 授業後にはディスカッションを踏まえて修士論文本体の執筆と加除修正を行うこと。＜2時間＞						
授業方法	演習形式。報告と質疑応答、ディスカッションを行う。必要に応じて個別指導を併せて行う。						
評価基準と評価方法	・研究に取り組む姿勢20% 到達目標（1）（2）に関する達成度の確認 ・修士論文50% 到達目標（3）に関する達成度の確認 ・発表機会（研究報告会、ゼミ内発表等）における発表内容（技術、態度、質疑応答等）30% 到達目標（4）に関する達成度の確認						
履修上の注意	主体的に研究に取り組み、積極的に発言し、ディスカッションに参加すること。						

教科書	なし
参考書	適宜紹介する。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバー	MP6030
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜5	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	家族療法やブリーフセラピーの理論と実際を学び、実践する。家族療法やブリーフセラピーの領域に関するテーマを選んで研究し、修士論文としてまとめる。						
授業の概要	臨床心理学の総合的な学びの成果として修士論文を作成する。先行研究に関する文献研究を十分に行い、研究計画を練ったうえで、研究を実施する。結果を分析し、学術論文の形を整え、修士論文として完成させる。						
到達目標	(1) 研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【態度・志向性】 (2) 必要な研究倫理に基づいて、研究を進めることができる。【研究倫理】 (3) 収集したデータを分析し、修士論文としてまとめることができる。【知識・理解】 (4) 研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 修士論文テーマの検討 第2回 修士論文テーマの絞り込み 第3回 先行研究の探索 第4回 先行研究についての討論 第5回 研究計画(1) 問題の設定 第6回 研究計画(2) 問題についての討論 第7回 研究計画(3) 目的の検討 第8回 研究計画(4) 仮設の設定 第9回 研究計画(5) 方法・手続きの立案 第10回 研究計画(6) 対象についての討論 第11回 研究計画(7) 中間発表準備 第12回 研究計画(8) 中間発表予行 第13回 研究計画(9) 中間発表振り返り 第14回 研究計画(10) 最終討論 第15回 研究計画(11) 協力者募集について 第16回 研究の実施 第17回 研究実施の振り返り 第18回 データの整理 第19回 データの集計 第20回 データの分析 第21回 記述統計について 第22回 記述統計の視覚化 第23回 記述統計のまとめ 第24回 推測統計について 第25回 推測統計の視覚化 第26回 推測統計のまとめ 第27回 結果の整理 第28回 考察の整理 第29回 論文の添削 第30回 修士論文発表準備指導						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回で扱う内容について心理学や臨床心理学の関連書にて予習および発表の準備(学習時間：90分) 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理(学習時間：90分)						
授業方法	1. 研究計画に関する討論 2. 調査もしくは実験の実施 3. 論文指導						
評価基準と評価方法	・研究に取り組む姿勢20% 到達目標(1)(2)に関する達成度の確認 ・修士論文50% 到達目標(3)に関する達成度の確認 ・発表機会(研究報告会、ゼミ内発表等)における発表内容(技術、態度、質疑応答等)30% 到達目標(4)に関する達成度の確認						
履修上の注意	自発的、積極的な姿勢で取り組むことが望まれる。						
教科書	なし						

参考書	授業中に紹介する
-----	----------

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	大学院 心理学専攻					科目ナンバ-	MP6030
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文を作成する。						
授業の概要	1年次に作成した研究計画書に沿ってデータの収集・分析を行い、結果の考察を進めて論文の作成を行う。同時に文献検討を行い、考察を深めていく。						
到達目標	1. 修士論文を完成させる。【汎用的技能】【研究倫理】 2. 自分の研究の位置づけやオリジナリティ、今後の展望を要約して説明できる。【知識・理解】【研究倫理】 3. 自分の研究をわかりやすく説明・発表することができる。【汎用的技能】【知識・理解】						
授業計画	第1回：研究計画の立案（1）研究計画書の発表準備 第2回：研究計画の立案（2）研究計画書の発表 第3回：研究計画の立案（3）研究計画書の修正（主に「問題と目的」） 第4回：研究計画の立案（4）研究計画書の修正（主に「方法と倫理的配慮」） 第5回：研究の実施（1）予備調査の実施 第6回：研究の実施（2）研究計画の最終修正 第7回：研究の実施（3）調査協力者への依頼の開始 第8回：研究の実施（4）調査時期の確定 第9回：研究の実施（5）調査の準備 第10回：研究の実施（6）調査の手順の確認 第11回：データ収集の状況確認（1）調査の実施と集計 第12回：データ収集の状況確認（2）データの探索的分析 第13回：データ収集の状況確認（3）データの追加収集と集計 第14回：データ収集の状況確認（4）データの2度目の探索的分析 第15回：データ収集の状況確認（5）データの追加収集と集計 第16回：結果の分析（1）素データの整理 第17回：結果の分析（2）記述統計の実施 第18回：結果の分析（3）推測統計の実施 第19回：結果の分析（4）分析結果の検討 第20回：結果の分析（5）再分析と結果の整理 第21回：論文執筆：問題と目的（1）執筆作業 第22回：論文執筆：問題と目的（2）推敲作業 第23回：論文執筆：方法（1）執筆作業 第24回：論文執筆：方法（2）推敲作業 第25回：論文執筆：結果（1）執筆作業 第26回：論文執筆：結果（2）推敲作業 第27回：論文執筆：考察（1）執筆作業 第28回：論文執筆：考察（2）推敲作業 第29回：論文執筆：全体のまとめと公聴会準備（1）パワーポイントの作成と発表 第30回：論文執筆：全体のまとめと公聴会準備（2）発表資料の修正						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：修士論文につながる文献や調査を自ら調べて、理解してまとめる。また興味を持った領域の本を読み進める。（学習時間：2時間） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、次に読み解く文献を収集する。（学習時間：2時間）						
授業方法	演習（ゼミ）形式を主とするが、適宜個別の指導を併用する。各回、発表者が先行研究や書籍の要約、もしくは関連する映像資料やワークのプレゼンテーションを行い、その内容について受講生と教員がディスカッションを行い、適宜補足の指導を行う。加えて、松蔭manabaを用いて研究計画に関して受講生同士の相互チェックや教員による添削指導を行う。						
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加度・貢献度（20%）：到達目標1の達成度確認 修士論文の完成度（60%）：到達目標1の達成度確認 公聴会での発表内容・質疑応答（20%）：到達目標1, 2, 3の達成度確認 ※ゼミ活動への参加度・貢献度は授業中の発言などを参考にし、欠席の場合には減点する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、個別指導を授業時間外に行うことで評価を伝え、改善点を提示する。						
履修上の注意	ゼミ活動においては積極的に質問や意見を互いに出し合うことを求める。						

教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理学特別研究						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	MP6030
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜6	配当学年	2	単位数	4.0
授業のテーマ	修士論文研究						
授業の概要	自身が決定したテーマについて研究し、修士論文としてまとめる。						
到達目標	(1) 研究計画に基づき、適切な方法でデータを収集することができる。【研究倫理】 (2) 必要な研究倫理に基づいて、研究を進めることができる。【研究倫理】 (3) 収集したデータを分析し、修士論文としてまとめることができる。【知識・理解】 (4) 研究の内容を分かりやすく発表し、質疑応答を行うことができる。【研究倫理】						
授業計画	#01: 研究テーマに関する文献レビュー (1) 報告者1の研究テーマについての報告と検討1 #02: 研究テーマに関する文献レビュー (2) 報告者2の研究テーマについての報告と検討1 #03: 研究テーマに関する文献レビュー (3) 報告者1の研究テーマについての報告と検討2 #04: 研究テーマに関する文献レビュー (4) 報告者2の研究テーマについての報告と検討2 #05: 研究テーマに関する文献レビュー (5) 報告者1の研究テーマについての報告と検討3 #06: 研究テーマに関する文献レビュー (6) 報告者2の研究テーマについての報告と検討3 #07: 研究テーマに関する文献レビュー (7) 各報告者による報告のまとめ #08: 研究計画の検討 (1) 報告者1による研究計画の報告と検討1 #09: 研究計画の検討 (2) 報告者2による研究計画の報告と検討1 #10: 研究計画の検討 (3) 報告者1による研究計画の報告と検討2 #11: 研究計画の検討 (4) 報告者2による研究計画の報告と検討2 #12: 研究計画の検討 (5) 報告者1による研究計画の報告と検討3 #13: 研究計画の検討 (6) 報告者2による研究計画の報告と検討3 #14: 研究計画の検討 (7) 報告者1による研究計画の報告と検討4 #15: 研究計画の検討 (8) 報告者2による研究計画の報告と検討4 #16: 研究結果の整理と分析 (1) 報告者1によるデータ分析の結果報告1 #17: 研究結果の整理と分析 (2) 報告者2によるデータ分析の結果報告1 #18: 研究結果の整理と分析 (3) 報告者1によるデータ分析の結果報告2 #19: 研究結果の整理と分析 (4) 報告者2によるデータ分析の結果報告2 #20: 研究結果の整理と分析 (5) 報告者1によるデータ分析の結果報告3 #21: 研究結果の整理と分析 (6) 報告者2によるデータ分析の結果報告3 #22: 研究結果の整理と分析 (7) 報告者1によるデータ分析の結果報告4 #23: 研究結果の整理と分析 (8) 報告者2によるデータ分析の結果報告4 #24: 研究結果の整理と分析 (9) 各報告者によるデータ分析のまとめ #25: 修士論文の作成 (1) 報告者1による修士論文報告1 #26: 修士論文の作成 (2) 報告者2による修士論文報告1 #27: 修士論文の作成 (3) 報告者1による修士論文報告2 #28: 修士論文の作成 (4) 報告者2による修士論文報告2 #29: 公聴会資料の作成 (1) 公聴会資料の作成 #30: 公聴会資料の作成 (2) 公聴会資料の完成						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習(2時間以上): 授業で検討する発表資料を作成しておく。 授業後学習(2時間以上): 授業内での討論を踏まえ、修士論文研究を進める(調査票の作成、データの分析、執筆、等)。						
授業方法	演習形式。 研究の進行に沿って、経過報告を行う。						
評価基準と評価方法	研究に取り組む姿勢(20%)【到達目標(1)(2)に関する達成度の確認】 修士論文(50%)【到達目標(3)に関する達成度の確認】 発表機会(研究報告会、ゼミ内発表等)における発表内容(技術、態度、質疑応答等)(30%)【到達目標(4)に関する達成度の確認】						
履修上の注意	原則として欠席は認めない。 授業計画は、受講者が2名の場合を想定している。また、この科目はゼミ科目である。したがって、受講者数や各受講者数の研究の進捗によって、授業計画の内容は変化する。						
教科書	なし。						

参考書	指導の過程において、適時紹介する。
-----	-------------------

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理教育特論（心の健康教育に関する理論と実践）						
担当教員	山本 竜也					科目ナンバ-	MP5310
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	心の健康教育に関する理論と実践を学ぶ。						
授業の概要	心の健康教育（心理教育）は、精神的健康の保持・増進、精神障害の予防などの観点から重要である。これまで、ソーシャルスキルトレーニング、アンガーマネジメント、ストレスマネジメント、自殺予防教育など様々な領域で実践が積み重ねられてきた。「心理教育特論（心の健康教育に関する理論と実践）」では、これらの心の健康教育に関する理論と実践を学ぶ。						
到達目標	1. 心の健康教育の意義を理解し、関連する知識及び理論について説明できる。【知識・理解】【態度・志向性】 2. 心の健康教育に関する実践に向けた資料の作成及び発表をすることができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション  第2回：心の健康教育の基本：正常と異常、予防、健康行動の形成・維持、動機づけ、ヘルスリテラシー  第3回：感情調整  第4回：認知再構成法  第5回：ストレスマネジメント（1）：ストレスに気づく  第6回：ストレスマネジメント（2）：ストレスを理解する  第7回：ストレスマネジメント（3）：ストレスに対処する  第8回：マインドフルネス（1）：マインドフルネスの基礎を学ぶ  第9回：マインドフルネス（2）：体験的理解を促す  第10回：慢性疼痛への支援  第11回：アンガーマネジメント  第12回：ソーシャルスキルトレーニング  第13回：アサーショントレーニング  第14回：行動活性化：自分らしく生きる方法を身に着ける  第15回：まとめ</p> <p>※上記内容は2022年度に取り扱った内容であるが、第3回から第14回目までは履修者の興味・関心に応じて柔軟に内容を変更しうる。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に自分自身が割り当てられた発表部分に関連する資料を探し、まとめる。（3時間） 授業後は授業時の意見などを踏まえ追加で資料を調べるなどする。（1時間）						
授業方法	授業の方法は講義・演習形式である。第3回～第14回目までは履修者の興味・関心を尊重しながら資料を調べ、まとめ、発表することを求める。発表に基づき、質疑応答、討論などを行う。						
評価基準と評価方法	平常点50%、期末レポート50%の割合で評価を行う。 平常点：授業態度、発表の適切さを評価する。（到達目標1・2の確認） 期末レポート：授業内容に基づき、心の健康教育に関する考えや理解度を評価する。（到達目標1・2の確認）						
履修上の注意	日常的に習慣化されている行動は、「当たり前なもの」として把握することが難しい。また、そのような行動を変容し、維持することはさらに難しい。履修者自身も心の健康教育という観点から日常的な癖を振り返ってみてほしい。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	心理実践実習Ⅰ						
担当教員	大和田攝子・中村博文・山本竜也					科目ナンバ-	MP5070
学期	通年／Full Year	曜日・時限	土曜2～4	配当学年	1	単位数	4.0
授業のテーマ	心理に関する支援を要する者等に対する支援の実践。						
授業の概要	実習に参加するための基本的な知識、技能、倫理を身につける。 また、学内施設（神戸松蔭こころのケア・センター）ならびに学外施設において、実習施設の実習指導者や担当教員の巡回による指導を受けながら、臨床心理学的な支援の実践について学ぶ。						
到達目標	<p>①心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能を身につける。【知識・理解】【汎用的技能】 （1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援</p> <p>②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成をすることができる。【知識・理解】【汎用的技能】</p> <p>③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチができる。【態度・志向性】</p> <p>④他職種連携及び地域連携ができる。【態度・志向性】</p> <p>⑤公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解をもてる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>・前期</p> <p>#01：オリエンテーションー心理実践実習Ⅰで何を学ぶか #02：実習生としての基本的な態度、心得 #03：他職種との連携とチームアプローチ #04：公認心理師としての職業倫理と法的義務 #05：実習施設の特徴：保健医療領域① #06：実習施設の特徴：保健医療領域② #07：実習施設の特徴：福祉領域① #08：実習施設の特徴：福祉領域② #09：実習施設の特徴：教育領域① #10：実習施設の特徴：教育領域② #11：実習施設の特徴：司法・犯罪領域① #12：実習施設の特徴：司法・犯罪領域② #13：実習施設の特徴：産業・労働領域① #14：実習施設の特徴：産業・労働領域② #15：実習施設の特徴：学内施設（神戸松蔭こころのケア・センター）</p> <p>※前期、および夏期休暇期間に、ボランティアや学外施設における見学実習を行う場合がある。</p> <p>・後期</p> <p>#16：学内施設ならびに学外施設における実習（1） #17：学内施設ならびに学外施設における実習（2） #18：学内施設ならびに学外施設における実習（3） #19：学内施設ならびに学外施設における実習（4） #20：学内施設ならびに学外施設における実習（5） #21：学内施設ならびに学外施設における実習（6） #22：学内施設ならびに学外施設における実習（7） #23：学内施設ならびに学外施設における実習（8） #24：学内施設ならびに学外施設における実習（9） #25：学内施設ならびに学外施設における実習（10） #26：学内施設ならびに学外施設における実習（11） #27：学内施設ならびに学外施設における実習（12） #28：学内施設ならびに学外施設における実習（13） #29：学内施設ならびに学外施設における実習（14） #30：学外実習報告会</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：支援の対象者や支援の内容に関して文献等で学習する（1時間）。</p> <p>授業後学習：毎回の実習の後に実習記録（実習ノート）を作成する（1時間）。</p>						
授業方法	講義、演習（グループワーク、プレゼンテーション）、実習・フィールドワーク、実技。						
評価基準と評価方法	<p>実習への参加態度（実習指導者のコメント、巡回指導時や事前事後指導時の様子、実習報告会での発表とその質疑応答）（50%）：到達目標①③④</p> <p>⑤に関する到達度の確認。</p> <p>各種報告書や作成資料（実習記録、実習報告書、実習報告会での発表資料等）（50%）：到達目標①②⑤に関する到達度の確認。</p>						

履修上の注意	実習を行う施設はいずれも実際の業務を行っている施設であり、そこで実際の支援が行われていることに留意すること。 学外施設への交通費については、自己負担となる。
教科書	なし。
参考書	必要に応じて、適時紹介する。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）						
担当教員	黒田 綾・首藤 由江・水野 泰行					科目ナンバ-	MP5220
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	保健医療分野の精神医学・心身医学領域に関する臨床心理学的理解						
授業の概要	<p>内容：臨床心理士・公認心理師として必要な精神医学・心身医学的知識          意義：臨床現場で起きている心理社会的問題について、臨床心理学的理論に基づく理解や接近方法について学ぶと共に精神科・心療内科臨床についての理解を深める。          目的：臨床現場で起きている問題について、臨床心理学的接近法に基づき理解する。</p>						
到達目標	<p>①臨床現場において生じる問題およびその背景について説明できる。（知識・理解）          ②臨床現場における心理社会的課題について必要な支援を実施できる。（汎用的技能）          ③授業から得た理解を心理臨床に応用し、臨床現場で他職と協働できる。（態度・志向性）</p>						
授業計画	<p>水野          第1回 心身医学と精神医学の専門性          第2回 ストレスの心身への影響          第3回 疾病の生物心理社会的モデル          第4回 集学的診療における精神・心理職の役割          第5回 慢性疼痛の精神療法</p> <p>首藤          第6回 統合失調症          第7回 気分障害          第8回 不安症          第9回 発達障害          第10回 摂食障害</p> <p>黒田          第11回 せん妄          第12回 認知症          第13回 サイコオンコロジー（精神腫瘍学）          第14回 緩和ケア          第15回 支援者に対する精神的支援</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：各回授業で扱う当該箇所を、参考書やwebなどによって下調べをする。ただしwebは情報の質を吟味すること。（2時間）          授業後学習：不明点の抽出、復習。（2時間）</p>						
授業方法	対面講義						
評価基準と評価方法	<p>レポート80%（締め切り厳守）：レポートの内容、文章力、構成力、オリジナリティーなどで評価する。到達目標①②③の到達度の評価。          授業への取り組み20%：出席と授業中の質問の答え方などで評価する。到達目標①②③の到達度の評価。</p>						
履修上の注意	15分以上の遅刻は欠席扱いとするが、事情があれば事前に連絡すること。すべてのレポートを提出期限までに提出することが必須である。						
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>心療内科学 ―診断から治療まで―、初版、日本心療内科学会（総編集）・中井吉英・久保千春（編集代表）、朝倉出版、2022年、978-4-254-32265-1</li> <li>その他プリントを配布する。</li> </ul>						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>慢性疼痛診療ハンドブック、初版、池本竜則（編著）、中外医学者、2016年、978-4-498-05610-7</li> <li>その他授業で紹介する。</li> </ul>						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	認知行動療法特論						
担当教員	巢黒 慎太郎					科目ナンバ-	MP5240
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	認知行動療法の理論と実践						
授業の概要	効果の実証されている心理療法のひとつである認知行動療法 (Cognitive Behavior therapy: CBT) について、その基盤となる行動科学・認知病理学の諸理論や効果研究をふまえながら、「実証に基づく実践」の理念を学ぶ。またデモ面接映像や多くの臨床事例を題材としながら、認知行動論的に問題を把握し仮説形成する視点や、具体的な介入技法とそれらを用いる際の工夫・配慮を学ぶ。いくつかの技法は体験的に演習も行う。臨床場面でクライアントが行うのと同様に、受講生自身も自己観察記録やRelaxation練習、行動や認知の変容などのホームワークに取り組み、その成果や達成度を報告、検討する。さらに、対象領域の広がりや技法の分化・統合などについても触れ最新の発展を紹介する。						
到達目標	①認知行動論的な視点で事例を捉え評価・仮説を立てることができる。【知識・理解】 ②認知行動療法の代表的な援助介入技法の基礎を習得し、各自の実践に適用するイメージが持てる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション、実証に基づく臨床心理学的援助の理念 第2回 学習理論と認知病理研究の臨床的展開 第3回 CBTセッションの特徴、治療援助関係性 第4回 アセスメントとケースフォーミュレーション、行動の理解：機能分析 第5回 行動的技法 (1) 症状・問題への対処、リラクゼーションスキル 第6回 行動的技法 (2) 不安障害ケースへの適用 第7回 行動的技法 (3) コミュニケーションスキルの向上 第8回 認知的技法 (1) 認知モデル 第9回 認知的技法 (2) 考え方の癖に気づき、考えの幅を広げる 第10回 認知的技法 (3) 自動思考の検討、その他の認知的技法 第11回 認知的技法 (4) スキーマへの介入、スキーマ療法 第12回 新世代の認知行動療法 (1) 対象領域の広がり 第13回 新世代の認知行動療法 (2) 対象特異的アプローチと統合的アプローチ 第14回 新世代の認知行動療法 (3) マインドフルネス・スキルを中心に 第15回 質疑応答とまとめ						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回のテーマについて自身の予備知識を確かめ、疑問や問題意識を明確にして授業に臨む (学習時間：2時間)。 授業後学習：講義で学んだ内容に関連する文献を読み理解を深める。また、知識理解に留まらず、各回授業内で提示するホームワーク (技法習得のための自宅演習) を実施することで体験的理解に努める (学習時間：2時間)。						
授業方法	講義：主要な技法については、臨床上での導入の仕方やスキル習得などを授業中に演習し体験的に学ぶ。						
評価基準と評価方法	授業への参加状況：50% 授業中発言及び毎回のコメントシート (意見、質問、コメントなど)。ディスカッションおよびホームワーク実施等。到達目標①および②に関する到達度の確認。 最終レポート：50% 基本的知識の理解に加え、実践に向けての目的や対象を具体的に想定できるかを評価する。到達目標①および②に関する到達度の確認。						
履修上の注意	全15回中10回 (2/3) 以上の出席を満たさないと最終評価資格を失う。						
教科書	使用しない。適宜資料を配布する。						
参考書	『認知行動療法事典』日本認知・行動療法学会編 ISBN978-4-621-30382-5 『行動変容法入門』レイモンド・G・ミンテルバーガー著 二瓶社 ISBN978-4-86108-025-8 『不安障害の臨床心理学』坂野雄二・丹野義彦・杉浦義典 編 東京大学出版会 4-13-011120-5 『抑うつ臨床心理学』坂本真士・丹野義彦・大野裕 編 東京大学出版会 4-13-011118-3 『認知療法実践ガイド基礎から応用まで—ジュディス・ベックの認知療法テキスト 第2版』ジュディス・S・ベック 著 星和書店 978-4-7911-0907-4						

参考書	<p>『統合的方法としての認知療法』 東斉彰 編著 岩崎学術出版社 978-4-7533-1053-1</p> <p>『スキーマ療法 パーソナリティの問題に対する統合的認知行動療法アプローチ』 ジェフリー・E・ヤングほか 著 金剛出版 978-4-7724-1046-5</p> <p>『心理療法の諸システム 第6版』 ジェームズ・O・プロチャスカ、ジョン・C・ノークロス著 金子書房 978-4-7608-2630-8</p> <p>『マインドフルネス-基礎と実践-』 貝谷久宣・熊野宏昭・越川房子編著 日本評論社 987-4-535-98424-0</p>
-----	--

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	認知発達心理学特論／認知発達心理学特論I						
担当教員	鳥居 さくら					科目ナンバー	MP5130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	子どもの認知の発達						
授業の概要	発達段階をとおして変化する行動と心理社会的スキルについて理解を深める。						
到達目標	(1) 子どもの認知の発達について理解できる。[知識・理解] (2) 子どもの認知の発達について調べるための手法を知ることができる。[汎用的技能] (3) 子どもの認知発達を理解したうえで関連領域との連携ができる姿勢を身に着けることができる。[態度・志向性]						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、発表担当決定</li> <li>2. 感覚の発達</li> <li>3. 視機能の発達</li> <li>4. 顔の認知</li> <li>5. ミラーリング</li> <li>6. 予測</li> <li>7. 制御</li> <li>8. 模倣</li> <li>9. 共感</li> <li>10. 感情</li> <li>11. 注意</li> <li>12. 対人関係</li> <li>13. 関連論文の発表(1) (行動)</li> <li>14. 関連論文の発表(2) (環境と行動)</li> <li>15. 討論</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：講義のテーマに関する文献を読み、まとめ、理解を深めておく。発表の際にはレジメをあらかじめ作成する。(学習時間：2<時間>) 授業後学習：授業で扱ったテーマについて、整理、確認し、自分の考えを深め、発展させる。(学習時間：2<時間>)						
授業方法	発表、文献購読、討論						
評価基準と評価方法	授業態度(20%)：到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認、 発表(40%)：到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認、 レポート(40%)：到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認						
履修上の注意	積極的な授業への参加を期待する。						
教科書	適宜紹介する。						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	発達心理学特殊研究I						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	MP5170
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	主として乳幼児期の発達と親子関係のメカニズムとそれを測定する方法、および支援する方法を学ぶ						
授業の概要	子どもや養育者のカウンセリングに隣接する、発達心理学や発達精神病理学、脳科学などの研究知見を紹介し、子ども個人のこころの発達や、子どもを取り巻く関係性の構成要因であり、育てる者・共に育つ者である養育者のこころの発達を学ぶ。中でも愛着理論の視点から親子の相互作用をアセスメントし、その支援について検討する。						
到達目標	1. 親子の相互作用のメカニズムやその測定方法について説明できる。【知識・理解】 2. 子どもの養育者のこころを理解するために発達心理学や臨床心理学の知見を踏まえた見立てと方針を構築する姿勢を持つことができる。【汎用的技能】【態度・志向性】						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：愛着理論の基礎 第3回：愛着理論に基づく子どもの行動の分類①～A, Bタイプ～ 第4回：愛着理論に基づく子どもの行動の分類②～C, Dタイプ～ 第5回：愛着理論の臨床的発展① ～DMM-AAIとは～ 第6回：愛着理論の臨床的発展② ～動的・成熟アプローチの特徴～ 第7回：愛着理論の臨床的発展③ ～DMM-AAIに基づく分類～ 第8回：愛着理論の臨床的発展④ ～DMM-AAIに基づく分類の応用～ 第9回：愛着理論に基づく二者関係そのものへの介入 第10回：事例から学ぶ① ～実際の症例のMIMの分析～ 第11回：事例から学ぶ② ～実際の症例のMIMに基づく見立てと方針の構築～ 第12回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ① ～ペア1の検討～ 第13回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ② ～ペア2の検討～ 第14回：非言語的・情動的コミュニケーションを学ぶ③ ～ペア3の検討～ 第15回：振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：事前に提供する配布資料すべてに目を通す。加えて担当回にはそれらの資料の要約や補足情報を収集し資料の作成を行う。（学習時間：2時間） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ、授業や発表の振り返りを行うとともに、授業内で紹介された追加の文献や資料に目を通す。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式と演習形式を併用する。各回、発表者が指定する書籍や論文の要約、もしくは事例のプレゼンテーションを行い、その内容について受講生と教員がディスカッションを行い、適宜補足の指導を行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度（30%）：到達目標2の達成度確認 期末レポート（70%）：到達目標1, 2の達成度確認 ※授業への参加・貢献度は授業時間内での発表やディスカッション、感想・質問シートの記入を元に算定する。発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、評価を伝え、改善点を提示する。						
履修上の注意	発表回数は履修生の人数に応じて適宜スケジュールを変更して実施する。						
教科書	特に指定せず、授業内にて資料を配布する。						
参考書	パトリシア・M・クリテンデン(2018) アタッチメント理論への動的・成熟アプローチ—動的・成熟モデルによる談話分析。岩崎学術出版社 ISBN：9784753311392						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	発達心理学特殊研究II						
担当教員	谷川 弘治					科目ナンバ	MP5180
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	難治性疾患のある子どもと青年の発達と支援 - 小児・AYA世代のがんを中心に						
授業の概要	医療の進歩とともに難治性疾患のある子ども・青年の予後は改善してきており、通常の生活を送ることができている人も増えてきている。しかし、住み慣れた家から離れて過ごす入院中に過大なストレスがかかるだけでなく、退院後もさまざまな「生活のしづらさ」に直面することが少なくない。がんの治療中から治療後までを自分らしく生活し、社会参加していくことができるよう、医療、保育、教育、労働等の枠組みを超えたトータルな支援システムの構築が求められている。ここでは、小児・AYA世代のがんを中心に難治性疾患のある子どもと青年の発達と支援の諸課題について学びを深めていきたい。						
到達目標	(1) 難治性疾患とつきあひながら成長・発達していく子ども・青年と家族を理解する視点を述べるができる。[知識・理解(2)] (2) 小児・AYA世代のがんの治療中から治療後までを見据え、心理支援の専門職としてできることを、事例の状況に即して検討できる。[知識・理解(2)] (3) 多職種協働を促進するために留意し、行動すべきことを検討できる。[知識・理解(2)]						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション/難治性疾患のある子どもと青年を対象とする臨床における研究の方法</p> <p>第2~4回 病気の子どもと家族の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康、生活の質とトータルケア</li> <li>自分らしく生きるための土台</li> <li>医療の主人公になる(セルフケア、グリーンワークなど)</li> <li>心理アセスメント</li> </ul> <p>第5~10回 入院中の子どもへの安心の提供と健康行動の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>親しみやすい病院環境の提供・日常性の確保</li> <li>サイコロジカルプレパレーション</li> <li>アピランス問題への心理的アプローチ</li> <li>セラピューティックプレイアクティビティ</li> <li>学校教育の支援(復学支援、進学)</li> <li>社会的自立の支援</li> <li>長期フォローアップ(晩期合併症、恋愛と結婚、妊娠・出産・育児)</li> </ul> <p>第11~13回 エンドオブライフケアにおける心理支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>緩和ケア</li> <li>こどもホスピス</li> </ul> <p>第14~15回 まとめ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>個別課題: 自らテーマを設定し、授業と並行して課題研究に取り組む。(学修時間90分)</p> <p>授業準備: テーマを設定し、課題研究に取り組み発表する。(学修時間90分)</p> <p>授業事後: 授業を振り返り、感じたこと、考えたことを整理し、つぎの課題を明確化する。(学修時間90分)</p>						
授業方法	個別、グループにおける課題研究と発表を主として展開する。						
評価基準と評価方法	<p>&lt;理想的な達成の基準&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>明確で柔軟な視点をもって、小児・AYA世代のがん患者と家族の状況をアセスメントできている。(到達目標(1))</li> <li>小児・AYA世代のがんの治療中、治療後、エンドオブライフ期に応じた、適切なアセスメントに基づく支援を計画できる。(到達目標(2))</li> <li>支援を展開していく過程に多職種協働の視点が活かされている。(到達目標(3))</li> </ul> <p>&lt;評価方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各回の授業にむけて事前に提示された課題の提出: 40% 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認</li> <li>授業中の学び: 20% 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認</li> <li>最終回に提出・発表するレポート: 40% 到達目標(2)(3)に関する到達度の確認</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業計画に沿いながら受講者自身が作り上げる授業であり、積極的な提案を期待する。</li> <li>グループワークでは、いま、ここで感じたことを言葉にすることが大切である。しかし、いろいろな思いが交錯して言葉にならないときもある。また、グループに参加できないときもあるかもしれない。そのようなときは、授業の流れを外から見ること大切にしてほしい。</li> </ul>						
教科書	指定しない。						

参考書	<p>&lt;健康心理学と医療・看護関連分野&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『多職種合同ワークショップ「病気の子どもへのトータルケアセミナー」研修プログラム集 第8集：表現力を高める 医療現場での対話と実践を振り返り、共有するために』、谷川弘治ほか、私製（<a href="https://k-tanigawa.com">https://k-tanigawa.com</a>）</li> <li>・『医療保育セミナー』、日本医療保育学会（編）、健帛社、978-4-7679-5033-4</li> <li>・『子ども療養支援』、田中恭子（編）、中山書店、9784521739625</li> <li>・“Adherence to Pediatric Medical Regimens”, second ed., Michael A. Ripoff, SPRINGER, 978-1-4419-8143-1</li> <li>・『病弱・虚弱児の医療・療育・教育（改定第3版）』、宮本信也・土橋圭子（編）、金芳堂、978-4-7653-1627-9</li> <li>・『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』、小野次郎ほか、ミネルヴァ書房、978-4-623-06153-2</li> <li>・『臨床健康心理学 ケースフォーミュレーションと心理療法』、安藤美華代（監訳）、岡山大学出版会、978-4-9042-2816-6</li> <li>・『健康心理学・入門 健康なこころ・身体・社会づくり』、島井哲志・長田久雄・小玉正博、有斐閣アルマ、978-4-6411-2386-1</li> <li>・『病気の子どもへの心理社会的支援入門 医療保育・病弱教育・医療ソーシャルワーク・心理臨床を学ぶ人に』第2版、谷川弘治ほか（編）、ナカニシヤ出版978-4-7795-0289-7</li> <li>・『病院のアート 医療現場の再生と未来』、アートミーツケア学会（編）、生活書院、9784865000283</li> <li>・『小児看護ケアモデル実践集』松森直美、蝦名美智子（編）、へるす出版、9784892697784</li> </ul> <p>&lt;小児がん&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『小児血液・腫瘍学』、日本小児血液・がん学会（編）、診断と治療社、978-4787820983</li> <li>・『チャーリーブラウンなぜなんだい ともだちがおもい病気になったとき』、チャールズ・シュルツ（細谷亮太 訳）、岩崎書店、978-4-2658-0069-8</li> <li>・『君と白血病』LS Baker, 細谷亮太（訳）、医学書院、4-260-34002-6</li> </ul> <p>&lt;病院における遊び&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・“Handbook of Medical Play Therapy and Child Life -Interventions in Clinical and Medical Settings”, Lawrence C. Rubin(ed.), ROUTLEDGE, 978-1-138-69001-1</li> <li>・『多職種合同ワークショップ「病気の子どもへのトータルケアセミナー」研修プログラム集 第7集：子どもの遊びと遊び活動』、谷川弘治、私製（<a href="https://k-tanigawa.com">https://k-tanigawa.com</a>）</li> <li>・『チャイルドライフカウンスル 遊び活動レシピブック』、谷川弘治ほか（訳）、私製（<a href="https://k-tanigawa.com">https://k-tanigawa.com</a>）</li> </ul> <p>&lt;自立支援&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『大人になりゆくあなたに 小児慢性疾患の治療・定期検診を受けながら大人の準備をするためのガイドブック（中学生・高校生向）』、キャリアオーバーキャリアガイダンスハンドブック検討会（編）、私製（<a href="https://k-tanigawa.com">https://k-tanigawa.com</a>）</li> <li>・『社会にはばたくときに 社会人として歩み始めた小児慢性疾患患者・経験者のみなさんに』、キャリアオーバーキャリアガイダンスハンドブック検討会（編）、私製（<a href="https://k-tanigawa.com">https://k-tanigawa.com</a>）</li> </ul> <p>&lt;緩和ケア&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『子どもたちの笑顔を支える小児緩和ケア』、多田羅竜平、金芳堂、978-4-7653-1705-4</li> <li>・『空にかかるはしご 天使になった子どもと生きるグリーフサポートブック』、「空にかかるはしご」編集委員会、九州大学大学院</li> <li>・“The private worlds of dying children”, Bluebond-Langner, M., Princeton paperback, 978-0-6910-2820-0</li> </ul>
-----	---

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	発達心理学特論／発達心理学特論I						
担当教員	榊原 久直					科目ナンバ-	MP5090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	主として乳幼児期の発達のプロセスとそれを測定する方法、および発達のメカニズムや原動力となるものを学ぶ						
授業の概要	子どものカウンセリングに隣接する、発達心理学や発達精神病理学、脳科学などの研究知見を紹介し、子ども個人のこころの発達や、子どもを取り巻く関係性の構成要因であり、育てる者・共に育つ者である養育者のこころの発達にも目を向け“関係発達”や“関係障害”という視点から、発達の相互作用を捉えていく。						
到達目標	1. 人間の発達のメカニズムやその測定方法について説明できる。【知識・理解】 2. 子どものこころを理解するために発達状態や発達特性を踏まえた見立てと方針を構築する姿勢を持つことができる。【汎用的技能】【態度・志向性】						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：関係発達と関係障害について 第3回：発達検査に根付いた発達理論から学ぶ“定型発達”①子ども理解 第4回：発達検査に根付いた発達理論から学ぶ“定型発達”②乳幼児期 第5回：乳幼児期の発達を検査から捉える 第6回：発達検査に根付いた発達理論から学ぶ“定型発達”③幼児期前半 第7回：発達検査に根付いた発達理論から学ぶ“定型発達”④幼児期後半 第8回：幼児期の発達を検査から捉える 第9回：発達検査に根付いた発達理論から学ぶ“定型発達”⑤児童期前期 第10回：発達検査に根付いた発達理論から学ぶ“定型発達”⑥児童期後期 第11回：発達検査に根付いた発達理論から学ぶ“定型発達”⑦発達の障害 第12回：児童期以降の発達を検査から捉える 第13回：発達心理学とカウンセリングとの交差点①親の関わりの影響 第14回：発達心理学とカウンセリングとの交差点②メンタライジング 第15回：振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：事前に提供する配布資料すべてに目を通す。加えて担当回にはそれらの資料の要約や補足情報を収集し資料の作成を行う。（学習時間：2時間） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ、授業や発表の振り返りを行うとともに、授業内で紹介された追加の文献や資料に目を通す。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義形式と演習形式を併用する。各回、発表者が指定する書籍や論文の要約、もしくは事例のプレゼンテーションを行い、その内容について受講生と教員がディスカッションを行い、適宜補足の指導を行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度（30%）：到達目標2の達成度確認 期末レポート（70%）：到達目標1, 2の達成度確認 ※授業への参加・貢献度は授業時間内での発表やディスカッション、感想・質問シートの記入を元に算定する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、評価を伝え、改善点を提示する。						
履修上の注意	発表回数は履修生の数に応じて適宜スケジュールを変更して実施する。						
教科書	特に指定せず、授業内にて資料を配布する。						
参考書	白石正久・白石恵理子(2020)新版 教育と保育のための発達診断 下 発達診断の視点と方法. 全国障害者問題研究会出版部 ISBN: 4881349155						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	MP532A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文作成に向けて、研究テーマを模索する。						
授業の概要	臨床心理学領域の中から各自が関心を持つテーマについて文献研究を通して理解を深めるとともに、先行研究をもとに各自の研究テーマを絞り込む。						
到達目標	(1) 臨床心理学領域における各自の研究テーマと関連のある文献を読み、要点をまとめて整理することができる。【知識・理解】 (2) 必要な研究倫理について説明することができる。【研究倫理】 (3) ディスカッションを通じて、互いの研究に対する理解を深めることができる。【知識・理解】 (4) 修士論文の研究計画について、ある程度方向性を決めることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 文献発表とディスカッション (1) : 先行研究の収集 第3回 文献発表とディスカッション (2) : 先行研究の収集 第4回 文献発表とディスカッション (3) : 先行研究のまとめ 第5回 文献発表とディスカッション (4) : 先行研究のまとめ 第6回 文献発表とディスカッション (5) : 研究テーマの明確化 第7回 文献発表とディスカッション (6) : 研究テーマの明確化 第8回 文献発表とディスカッション (7) : 先行研究の収集 第9回 文献発表とディスカッション (8) : 先行研究の収集 第10回 文献発表とディスカッション (9) : 先行研究のまとめ 第11回 文献発表とディスカッション (10) : 先行研究のまとめ 第12回 文献発表とディスカッション (11) : 研究テーマの明確化 第13回 文献発表とディスカッション (12) : 研究テーマの明確化 第14回 文献発表とディスカッション (13) : 研究計画 第15回 文献発表とディスカッション (14) : 研究計画						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各自の研究テーマと関連のある文献を熟読し、資料にまとめる。<2時間> 授業後学習：授業での発表時のコメントを踏まえ、資料の修正など次の段階に進む準備。<2時間>						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	発表(50%)：到達目標(1)(2)(4)に関する到達度の確認。 授業への参加度(50%)：到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	主体的に取り組むことが求められる。						
教科書	なし						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバー	MP532A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学の研究						
授業の概要	臨床心理学（特に精神分析、対象関係論）に関する文献を購読し、興味のある課題と関連づけ、研究テーマを設定します。						
到達目標	(1) 修士論文のテーマと研究計画を明確にし伝えることができる。【知識・理解】【研究倫理】 (2) 討議を通じて、互いの研究に対する理解を深めることができる。【知識・理解】【研究倫理】 (3) 授業を通して得られた知識や理解を、臨床への態度に活かすことができる。【汎用的技能】【研究倫理】						
授業計画	第1回 オリエンテーション（授業の進め方） 第2回 興味・関心の言語化(1) 第3回 興味・関心の言語化(2) 第4回 興味・関心の言語化(3) 第5回 興味・関心の言語化(4) 第6回 先行研究の整理(1) 第7回 先行研究の整理(2) 第8回 先行研究の整理(3) 第9回 先行研究の整理(4) 第10回 研究テーマの検討(1) 第11回 研究テーマの検討(2) 第12回 研究テーマの検討(3) 第13回 研究テーマの検討(4) 第14回 研究テーマの設定(1) 第15回 研究テーマの設定(2)						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：精神分析、対象関係論、研究テーマに関連する文献の購読、研究テーマについて検討を行うための資料の作成 <2時間> 授業後学習：提出物の加筆修正 <2時間>						
授業方法	講義、演習（ディスカッション、プレゼンテーション）						
評価基準と評価方法	平常点（50%）、提出物（50%）により評価をおこなう。 平常点：授業への参加貢献。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認 提出物：到達目標(1)(3)に関する到達度の確認						
履修上の注意	授業外時間も積極的に学び意見や質問をしてください。						
教科書	なし						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバー	MP532A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜6	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文の研究テーマを探求する						
授業の概要	修士論文の作成に取り組む準備として、自らの関心のあるテーマに関連する文献調査を行い、その報告とディスカッションを通じて、修士論文の研究テーマとして適切なテーマを探求することを目指す。						
到達目標	(1) 関心のあるテーマに関連した適切な文献を選択できる。【知識・理解】 (2) 修士論文の研究テーマのおよその方向性を定めることができる。【研究倫理】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：修士論文の作成過程について 第2回 臨床心理学の研究法(1)：量的研究について 第3回 臨床心理学の研究法(2)：質的研究について 第4回 臨床心理学の研究法(3)：課題意識の明確化について 第5回 臨床心理学の研究法(4)：先行研究の調査について 第6回 臨床心理学の研究法(5)：先行研究の分析について 第7回 第一次文献調査(1)：報告 第8回 第一次文献調査(2)：ディスカッション 第9回 第二次文献調査(1)：報告 第10回 第二次文献調査(2)：ディスカッション 第11回 第一次研究テーマの検討(1)：報告 第12回 第一次研究テーマの検討(2)：ディスカッション 第13回 第二次研究テーマの検討(1)：報告 第14回 第二次研究テーマの検討(2)：ディスカッション 第15回 まとめ：総括と今後の課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には関連する文献を読み報告資料を作成すること。＜2時間＞ 授業後は文献の追加調査を行うこと。＜2時間＞						
授業方法	演習形式。報告と質疑応答、ディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業での報告50%：適切な文献を探索して的確にまとめて報告できているかを評価する。到達目標（1）に関する到達度の確認。 質疑応答とディスカッション50%：テーマの持つ意味、社会との結びつきについての理解度を評価する。到達目標（2）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	主体的に研究に取り組み、積極的に発言し、ディスカッションに参加すること。						
教科書	なし						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバ-	MP532A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学研究の基礎について学ぶ。また、心理援助の基本について学ぶとともに、家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの基礎理論について学ぶ。						
授業の概要	家族療法やブリーフセラピーの領域に関する理論的枠組みや技法について、文献やロールプレイを通して学ぶ。また、この領域における研究について概観し、自らの研究テーマを模索する。						
到達目標	1. 家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの理論や技法について説明できる。【知識・理解】 【研究倫理】 2. 関心の領域についての臨床心理学の理論について説明でき、研究計画を立てるために必要な文献を読み、発表することができる。【知識・理解】 【研究倫理】						
授業計画	第1回 授業のすすめ方（ガイダンス） 第2回 臨床心理学における研究方法について 第3回 臨床心理学研究の実際（家族療法）（1） 第4回 臨床心理学研究の実際（システム理論）（2） 第5回 臨床心理学研究の実際（ジョイニング）（3） 第6回 臨床心理学研究の実際（MRI理論）（4） 第7回 臨床心理学研究の実際（リフレーミング）（5） 第8回 臨床心理学研究の実際（ブリーフセラピー）（6） 第9回 臨床心理学研究の実際（ナラティブセラピー）（7） 第10回 臨床心理学研究の実際（社会構成主義心理療法）（8） 第11回 臨床心理学研究の実際（量的研究）（9） 第12回 臨床心理学研究の実際（実験研究）（10） 第13回 臨床心理学研究の実際（調査研究）（11） 第14回 臨床心理学研究の実際（効果研究）（12） 第15回 臨床心理学研究の実際（質的研究）（13）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について心理学や臨床心理学のみならず、家族療法やブリーフセラピーの関連書や論文にて予習（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：2時間）						
授業方法	講義、文献研究、グループディスカッション、ロールプレイ						
評価基準と評価方法	発表（60%）、質疑応答（20%）、討論（20%） 発表：与えられたテーマに関して、十分に文献を調べ、他者にわかりやすく説明できることの確認。また、自らが選んだ研究テーマに関して研究計画を立て、他者に論理的に説明できることの評価。到達目標の（1）（2）に関する到達度の確認。 質疑応答と討論：様々なテーマに関して臨床心理学的なものの見方を獲得でき、適切に表現できているのかどうかについての評価。到達目標の（1）（2）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	ロールプレイや発表をはじめ、自発的積極的参加が望まれる。						
教科書	なし						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	大学院 心理学専攻					科目ナンバ-	MP532A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文作成に向けて、論文の作成法を学ぶと共に自身の研究テーマを探索する。						
授業の概要	主として子どもや子育て、親支援、障碍（がい）に関連した臨床心理学領域における学術論文の形式や読み方について理解を深め、修士論文の研究に向けてテーマを探す。						
到達目標	1. 臨床心理学の研究論文を読み解き、発表することができる。【知識・理解】 【研究倫理】 2. 修士論文のテーマを選定することができる。【汎用的技能】 【知識・理解】 3. 修士論文のテーマに関連した課題性を提示することができる。【汎用的技能】 【研究倫理】						
授業計画	第1回：オリエンテーション 自己の関心のある研究テーマの紹介と発表の割り当て 第2回：文献を基にした発表とディスカッション（1）卒業研究の発表 第3回：文献を基にした発表とディスカッション（2）卒業研究の再検討 第4回：文献を基にした発表とディスカッション（3）発展的研究のテーマ検討 第5回：文献を基にした発表とディスカッション（4）テーマに関する文献検討 第6回：文献を基にした発表とディスカッション（5）キーワードの探索と知識整理 第7回：文献を基にした発表とディスカッション（6）キーワードに関する文献検討 第8回：文献を基にした発表とディスカッション（7）関連概念の探究 第9回：文献を基にした発表とディスカッション（8）調査方法の探究 第10回：文献を基にした発表とディスカッション（9）複数のキーワードの選出 第11回：文献を基にした発表とディスカッション（10）研究アイデアの生成 第12回：研究テーマの設定と課題性の検討（1）修士論文用のキーワードの選定 第13回：研究テーマの設定と課題性の検討（2）キーワードに関する追加の文献収集 第14回：研究テーマの設定と課題性の検討（3）キーワードの修正と再検討 第15回：授業の総括と夏休みの課題について						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：修士論文につながる文献や調査を自ら調べて、理解してまとめる。また興味を持った領域の本を読み進める。（学習時間：2時間） 授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、次に読み解く文献を収集する。（学習時間：2時間）						
授業方法	演習（ゼミ）形式を主とするが、適宜個別の指導を併用する。各回、発表者が先行研究や書籍の要約、もしくは関連する映像資料やワークのプレゼンテーションを行い、その内容について受講生と教員がディスカッションを行い、適宜補足の指導を行う。加えて、松蔭manabaを用いて研究計画に関して受講生同士の相互チェックや教員による添削指導を行う。						
評価基準と評価方法	ゼミ活動への参加・貢献度（50%）：到達目標1, 2の達成度確認 発表・提出物（50%）：到達目標1, 2, 3の達成度確認 ※ゼミ活動への参加度・貢献度は授業中の発言などを参考にし、欠席の場合には減点する。 発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、個別指導を授業時間外に行うことで評価を伝え、改善点を提示する。						
履修上の注意	ゼミ活動においては積極的に質問や意見を互いに出し合うことを求める。						
教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。						
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	MP532A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文研究テーマの模索						
授業の概要	様々な事象について、それを臨床心理学的な視点からどのように把握するかを学ぶ。また、修士論文研究のテーマを模索する。						
到達目標	(1) 関心のある心理学的現象に関わる先行研究を取り上げ、発表することができる。【知識・理解】 (2) 他者の発表を聞いて、適切なコメントをすることができる。【知識・理解】 (3) 必要な研究倫理について、説明することができる。【研究倫理】 (4) 修士論文研究の、おおよその方向性を決められる。【知識・理解】						
授業計画	#01: 関心のある領域についての文献レビューと討論(1) 報告者1による報告と討論1 #02: 関心のある領域についての文献レビューと討論(2) 報告者2による報告と討論1 #03: 関心のある領域についての文献レビューと討論(3) 報告者1による報告と討論2 #04: 関心のある領域についての文献レビューと討論(4) 報告者2による報告と討論2 #05: 関心のある領域についての文献レビューと討論(5) 報告者1による報告と討論3 #06: 関心のある領域についての文献レビューと討論(6) 報告者2による報告と討論3 #07: 関心のある領域についての文献レビューと討論(7) 報告者1による報告と討論4 #08: 関心のある領域についての文献レビューと討論(8) 報告者2による報告と討論4 #09: 関心のある領域についての文献レビューと討論(9) 報告者1による報告と討論5 #10: 関心のある領域についての文献レビューと討論(10) 報告者2による報告と討論5 #11: 関心のある領域についての文献レビューと討論(11) 報告者1によるテーマの絞り込み1 #12: 関心のある領域についての文献レビューと討論(12) 報告者2によるテーマの絞り込み1 #13: 関心のある領域についての文献レビューと討論(13) 報告者1によるテーマの絞り込み2 #14: 関心のある領域についての文献レビューと討論(14) 報告者2によるテーマの絞り込み2 #15: 関心のある領域についての文献レビューと討論(15) まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習(2時間以上): 関心がある領域についての文献を検索し、発表資料としてまとめる。 授業後学習(2時間以上): 授業内の討論を踏まえ、関連文献を複数検索し、読んでおく。						
授業方法	演習形式。 授業では、文献レビューの発表と、それに基づく討論を行う。						
評価基準と評価方法	発表(50%): 発表資料ならびに発表の仕方について評価する。【到達目標(1)、(3)、(4)の到達度確認】 討論への参加(50%): 他者の発表に対するコメントの内容について評価する。【到達目標(2)、(3)の到達度確認】						
履修上の注意	原則として欠席は認めない。 授業計画は、受講者が2名の場合を想定している。また、この科目はゼミ科目である。したがって、受講者数や各受講者数の研究の進捗によって、授業計画の内容は変化する。 なお、担当者は対人関係精神分析/関係精神分析的なオリエンテーションで心理臨床活動を行っていることを理解しておくこと。						
教科書	なし。						
参考書	指導の過程において、適時紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究A						
担当教員	山本 竜也					科目ナンバ-	MP532A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文に向けて、自分自身の研究テーマを設定する。						
授業の概要	修士論文に向けて、自分自身の研究テーマを設定し、研究計画を立案する方法を学ぶ。具体的には、自分自身の興味・関心を知り、先行研究を調べ、リサーチクエスチョンを定める。その後、構成概念、心理尺度、実施手続きなどを決める。これらの過程で研究倫理や個人情報保護についても学ぶ。						
到達目標	1. 自分自身の興味・関心に基づき、人を対象とする研究倫理を遵守した研究計画を立案することができる。【研究倫理】 2. 自分自身の研究計画を研究計画書や研究倫理申請書に適切に記載することができる。【研究倫理】						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：自分自身の興味・関心を知る（1）：日常的な用語で説明する 第3回：自分自身の興味・関心を知る（2）：心理学の学術用語を用いて説明する 第4回：先行研究を調べる（1）：レビュー論文を調べる 第5回：先行研究を調べる（2）：主要な研究論文を調べる 第6回：先行研究を調べる（3）：自分の研究の中心となる論文を調べる 第7回：研究計画の立案（1）：リサーチクエスチョンの決定 第8回：研究計画の立案（2）：リサーチクエスチョンから変数を見出す 第9回：研究計画の立案（3）：適切な心理尺度を決める 第10回：研究計画の立案（4）：手続きを決める 第11回：研究計画書の作成 第12回：研究計画書の完成 第13回：研究倫理申請書の作成 第14回：研究倫理申請書の完成 第15回：まとめ：総括と今後の方針・課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には関連する文献を調べ、授業内で進捗状況を報告できるようにする。（2時間） 授業後には授業内で指導があった点について調べたり、資料をまとめたりする。（2時間）						
授業方法	授業は演習形式である。内容は履修者の進捗状況に応じて柔軟に対応する。						
評価基準と評価方法	平常点70%、成果物30%の割合で評価を行う。 平常点：授業態度、質疑応答、報告の適切さの確認（到達目標1・2の確認） 成果物：自分の研究計画を研究計画書や研究倫理申請書としてまとめたものの適切さの確認（到達目標1・2の確認）						
履修上の注意	学術的な疑問や問いを解決する手段が研究である。研究においても、疑問や問いを解決していく問題解決志向が求められる。日常的にどのような問題があるのか、どのようにすれば現状よりもよくなるのかを考えながら、主体的に研究にも取り組んでもらいたい。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	MP532B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文の研究計画の立案						
授業の概要	臨床心理学領域における各自の研究テーマについて、修士論文の研究計画を立案することを目指す。先行研究をもとに各自の研究テーマを絞り込み、具体的な研究計画を立てる。						
到達目標	(1) 各自の研究テーマと関連のある文献を読み、要点をまとめて整理することができる。【知識・理解】 (2) 必要な研究倫理について説明することができる。【研究倫理】 (3) ディスカッションを通じて、互いの研究に対する理解を深めることができる。【知識・理解】 (4) 修士論文のテーマを絞り込み、具体的な研究計画を立てることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 具体的な研究計画を立てる (1) : 研究方法の検討 第3回 具体的な研究計画を立てる (2) : 研究方法の検討 第4回 具体的な研究計画を立てる (3) : 尺度の収集 第5回 具体的な研究計画を立てる (4) : 尺度の収集 第6回 具体的な研究計画を立てる (5) : 質問項目の検討 第7回 具体的な研究計画を立てる (6) : 質問項目の検討 第8回 具体的な研究計画を立てる (7) : データ収集の方法 第9回 具体的な研究計画を立てる (8) : データ収集の方法 第10回 具体的な研究計画を立てる (9) : データ処理法の検討 第11回 具体的な研究計画を立てる (10) : データ処理法の検討 第12回 具体的な研究計画を立てる (11) : 研究計画書の作成 第13回 具体的な研究計画を立てる (12) : 研究計画書の作成 第14回 具体的な研究計画を立てる (13) : 研究計画書の修正 第15回 具体的な研究計画を立てる (14) : 研究計画書の修正						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各自の研究テーマと関連のある文献を熟読し、資料にまとめる。<2時間> 授業後学習：授業での発表時のコメントを踏まえ、資料の修正など次の段階に進む準備。<2時間>						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	発表(50%)：到達目標(1)(2)(4)に関する到達度の確認。 授業への参加度(50%)：到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	主体的に取り組むことが求められる。						
教科書	なし						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバー	MP532B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学の研究						
授業の概要	「臨床心理学特別研究A」で設定した研究テーマに基づき、研究計画書を作成します。						
到達目標	(1) 修士論文のテーマに関わる先行研究の成果と課題を、論文、および口頭により明確化できる。【知識・理解】【研究倫理】 (2) 修士論文の研究結果を明確にし伝えることができる。【知識・理解】【研究倫理】 (3) 討議を通じて、互いの研究に対する理解を深めることができる。【知識・理解】【研究倫理】 (4) 授業を通じて得られた知識や理解を、臨床の実践に活かすことができる。【汎用的技能】【研究倫理】						
授業計画	第1回 オリエンテーション（授業の進め方） 第2回 研究計画の検討(1) スケジュール、研究倫理 第3回 研究計画の検討(2) 導入と問題 第4回 研究計画の検討(3) 先行研究の成果と課題 第5回 研究計画の検討(4) 目的と仮説 第6回 研究計画の検討(5) 研究方法 第7回 研究計画書の作成(1) 第8回 研究計画書の作成(2) 第9回 研究計画書の作成(3) 第10回 研究計画書の作成(4) 第11回 研究計画書の作成(5) 第12回 研究計画書の修正(1) 第13回 研究計画書の修正(2) 第14回 研究計画書の修正(3) 第15回 ふりかえりと今後の予定						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献購読、討議用資料作成 <2時間> 授業後学習：提出物の加筆修正 <2時間>						
授業方法	講義、演習（ディスカッション、プレゼンテーション）						
評価基準と評価方法	平常点（50%）、提出物（50%）により評価をおこなう。 平常点：授業への参加貢献。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認 提出物：レビュー論文など。到達目標(1)(3)に関する到達度の確認						
履修上の注意	授業外時間も積極的に学び意見や質問をしてください。						
教科書	なし						
参考書	適宜紹介します。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバー	MP532B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜6	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文の研究テーマを設定する						
授業の概要	文献調査と研究計画の試行的な立案とを積み重ね、ディスカッションを深めることで、修士論文の研究テーマとして適切なテーマを設定することを目指す。						
到達目標	(1) 文献調査に基づき、関心のあるテーマについて概説できる。【知識・理解】 (2) 修士論文のテーマを設定し、研究計画を立案できる。【研究倫理】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：修士論文の作成過程について 第2回 臨床心理学の研究手法(1)：適切な理論的枠組みの選択について 第3回 臨床心理学の研究手法(2)：研究方法の選択について 第4回 臨床心理学の研究手法(3)：データの収集について 第5回 臨床心理学の研究手法(4)：データの分析について 第6回 臨床心理学の研究手法(5)：考察について 第7回 研究テーマの検討(1)：報告 第8回 研究テーマの検討(2)：ディスカッション 第9回 先行研究の調査(1)：報告 第10回 先行研究の調査(2)：ディスカッション 第11回 研究テーマの決定(1)：報告 第12回 研究テーマの決定(2)：ディスカッション 第13回 研究計画の立案(1)：報告 第14回 研究計画の立案(2)：ディスカッション 第15回 まとめ：総括と今後の課題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には関連する文献を読み報告資料を作成すること。＜2時間＞ 授業後は文献の追加調査や研究計画の推敲を行うこと。＜2時間＞						
授業方法	演習形式。報告と質疑応答、ディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業での報告50%：適切な文献を探索して的確にまとめて報告できているかを評価する。到達目標（1）に関する到達度の確認。 質疑応答とディスカッション50%：テーマの持つ意味、社会との結びつきについての理解度を評価する。到達目標（2）に関する到達度の確認。						
履修上の注意	主体的に研究に取り組み、積極的に発言し、ディスカッションに参加すること。						
教科書	なし						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	坂本 真佐哉					科目ナンバー	MP532B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学研究の基礎について学ぶ。また、心理援助の基本について学ぶとともに、家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの基礎理論について学ぶ。						
授業の概要	家族療法やブリーフセラピーの領域に関する理論的枠組みや技法について、文献やロールプレイを通して学ぶ。また、この領域における研究について概観し、自らの研究テーマを模索する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族療法（システムズアプローチ）やブリーフセラピーの理論や技法について説明できる。【知識・理解】【研究倫理】</li> <li>2. 関心の領域についての臨床心理学の理論について説明でき、研究計画を立てるために必要な文献を読み、発表することができる。【知識・理解】【研究倫理】</li> <li>3. 修士論文のための研究計画を立案することができる。【知識・理解】【研究倫理】</li> </ol>						
授業計画	第1回 授業のすすめ方（ガイダンス） 第2回 臨床心理学における研究方法について 第3回 臨床心理学研究の実際（家族療法）（1） 第4回 臨床心理学研究の実際（システム理論）（2） 第5回 臨床心理学研究の実際（ジョイニング）（3） 第6回 臨床心理学研究の実際（MRI理論について）（4） 第7回 臨床心理学研究の実際（リフレーミング）（5） 第8回 臨床心理学研究の実際（ブリーフセラピー）（6） 第9回 臨床心理学研究の実際（ナラティブセラピー）（7） 第10回 臨床心理学研究の実際（社会構成主義心理療法）（8） 第11回 臨床心理学研究の実際（量的研究）（9） 第12回 臨床心理学研究の実際（実験研究）（10） 第13回 臨床心理学研究の実際（調査研究）（11） 第14回 臨床心理学研究の実際（効果研究）（12） 第15回 臨床心理学研究の実際（質的研究）（13）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について心理学や臨床心理学のものならず、家族療法やブリーフセラピーの関連書や論文などによる学習や発表の準備（学習時間：2時間） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理（学習時間：2時間）						
授業方法	講義、文献研究、グループディスカッション、ロールプレイ						
評価基準と評価方法	発表（60%）、質疑応答（20%）、討論（20%） 発表：自ら選んだテーマについて文献を調べ、発表した内容の適切性の評価。また、研究計画を立て、仮説の検証のために適した内容になっているかについての評価。到達目標1、2、3の達成度の確認。						
履修上の注意	ロールプレイや発表をはじめ、自発的積極的参加が望まれる。						
教科書	なし						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	大学院 心理学専攻					科目ナンバ-	MP532B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文のための研究計画を作成する。						
授業の概要	臨床心理学特別研究Aから引き続き、個別のテーマに沿って文献を読むことやディスカッションを行う。そしてその中で、自分のテーマに応じた具体的な研究の手続きについて学び、研究計画を作成していく。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分自身の研究テーマに関連した研究方法とその特徴を説明することができる。【汎用的技能】【知識・理解】</li> <li>2. 自分自身の研究テーマの具体的なテーマや鍵となる概念を決めることができる。【汎用的技能】【研究倫理】</li> <li>3. 自分自身の研究テーマに応じた具体的な研究計画を考えることができる。【研究倫理】【知識・理解】</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回：夏休み中の課題に基づいた発表（1）キーワードに関する先行研究の要約</p> <p>第2回：夏休み中の課題に基づいた発表（2）先行研究の課題点の検討</p> <p>第3回：夏休み中の課題に基づいた発表（3）先行研究の発展案の検討</p> <p>第4回：文献レビューの作成（1）論文の収集と要約発表</p> <p>第5回：文献レビューの作成（2）論文の追加収集と再発表</p> <p>第6回：文献レビューの作成（3）先行研究の課題点の検討（課題点1の提起）</p> <p>第7回：文献レビューの作成（4）先行研究の課題点の検討（課題点2の提起）</p> <p>第8回：文献レビューの作成（5）先行研究の発展案の検討（第1案の作成）</p> <p>第9回：文献レビューの作成（6）先行研究の発展案の検討（第2案の作成）</p> <p>第10回：問題と目的の検討（1）発展研究の問いの生成</p> <p>第11回：問題と目的の検討（2）問いに対する仮説の生成</p> <p>第12回：方法と結果の分析方法の検討（1）仮説検証方法の考案</p> <p>第13回：方法と結果の分析方法の検討（2）仮説検証方法の具体化</p> <p>第14回：研究計画書の作成と発表（1）主に「問題と目的」から「仮説」の立ち上げまで</p> <p>第15回：研究計画書の作成と発表（2）主に「仮説」から「方法」まで</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：修士論文につながる文献や調査を自ら調べて、理解してまとめる。また興味を持った領域の本を読み進める。（学習時間：2時間）</p> <p>授業後学習：発表資料やディスカッションの内容を踏まえ、発表の振り返りを行うとともに、次に読み解く文献を収集する。（学習時間：2時間）</p>						
授業方法	<p>演習（ゼミ）形式を主とするが、適宜個別の指導を併用する。各回、発表者が先行研究や書籍の要約、もしくは関連する映像資料やワークのプレゼンテーションを行い、その内容について受講生と教員がディスカッションを行い、適宜補足の指導を行う。加えて、松蔭manabaを用いて研究計画に関して受講生同士の相互チェックや教員による添削指導を行う。</p>						
評価基準と評価方法	<p>ゼミ活動への参加・貢献度（50%）：到達目標1, 2の達成度確認</p> <p>発表・提出物（50%）：到達目標1, 2, 3の達成度確認</p> <p>※ゼミ活動への参加度・貢献度は授業中の発言などを参考にし、欠席の場合には減点する。</p> <p>発表資料や提出物に関しては授業時間内にコメントを行うとともに、個別指導を授業時間外に行うことで評価を伝え、改善点を提示する。</p>						
履修上の注意	ゼミ活動においては積極的に質問や意見を互いに出し合うことを求める。						
教科書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。						
参考書	受講者の発表内容や研究テーマに応じて適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	MP532B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	修士論文研究テーマの決定						
授業の概要	様々な事象について、それを臨床心理学的な視点からどのように把握するかを学ぶ。また、修士論文研究のテーマを決定する。						
到達目標	(1) 関心のある心理学的現象に関わる先行研究を取り上げ、発表することができる。【知識・理解】 (2) 他者の発表を聞いて、適切なコメントをすることができる。【知識・理解】 (3) 必要な研究倫理について、説明することができる。【研究倫理】 (4) 修士論文研究のテーマを決定し、研究計画を作成できる。【知識・理解】						
授業計画	#01: 関心のある領域についての文献レビューと討論(1) 報告者1による報告と討論1 #02: 関心のある領域についての文献レビューと討論(2) 報告者2による報告と討論1 #03: 関心のある領域についての文献レビューと討論(3) 報告者1による報告と討論2 #04: 関心のある領域についての文献レビューと討論(4) 報告者2による報告と討論2 #05: 関心のある領域についての文献レビューと討論(5) 報告者1による報告と討論3 #06: 関心のある領域についての文献レビューと討論(6) 報告者2による報告と討論3 #07: 関心のある領域についての文献レビューと討論(7) 報告者1による報告と討論4 #08: 関心のある領域についての文献レビューと討論(8) 報告者2による報告と討論4 #09: 関心のある領域についての文献レビューと討論(9) 報告者1による報告と討論5 #10: 関心のある領域についての文献レビューと討論(10) 報告者2による報告と討論5 #11: 関心のある領域についての文献レビューと討論(11) 報告者1による研究計画の立案 #12: 関心のある領域についての文献レビューと討論(12) 報告者2による研究計画の立案 #13: 修士論文テーマの決定・研究計画の作成・報告(1) 報告者1による報告 #14: 修士論文テーマの決定・研究計画の作成・報告(2) 報告者2による報告 #15: まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習(2時間以上): 関心がある領域についての文献を検索し、発表資料としてまとめる。 授業後学習(2時間以上): 授業内の討論を踏まえ、関連文献を複数検索し、読んでおく。						
授業方法	演習形式。 授業では、文献レビューの発表と、それに基づく討論を行う。						
評価基準と評価方法	発表(30%): 発表資料ならびに発表の仕方について評価する。【到達目標(1)、(3)の到達度確認】 討論への参加(30%): 他者の発表に対するコメントの内容について評価する。【到達目標②、③の到達度確認】 修士論文計画の作成(40%): 修士論文研究の研究計画について評価する。【到達目標③、④の到達度確認】						
履修上の注意	原則として欠席は認めない。 授業計画は、受講者が2名の場合を想定している。また、この科目はゼミ科目である。したがって、受講者数や各受講者数の研究の進度によって、授業計画の内容は変化する。 なお、担当者は対人関係精神分析/関係精神分析的なオリエンテーションで心理臨床活動を行っていることを理解しておくこと。						
教科書	なし。						
参考書	指導の過程において、適時紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特別研究B						
担当教員	山本 竜也					科目ナンバー	MP532B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	研究計画書に基づいて研究を実施する。						
授業の概要	「臨床心理学特別研究A」の内容を深め、研究計画書に基づき研究を実施し、結果をまとめる。						
到達目標	1. 自分自身の興味・関心に基づき、人を対象とする研究倫理を遵守した研究計画を立案し、実施することができる。【研究倫理】 2. 自分自身の研究計画、得られたデータを適切に発表、記述することができる。【研究倫理】						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：研究の進捗状況の報告と関連研究の調査 (1) 第3回：研究の進捗状況の報告と関連研究の調査 (2) 第4回：研究の進捗状況の報告と関連研究の調査 (3) 第5回：研究の進捗状況の報告と関連研究の調査 (4) 第6回：研究の進捗状況の報告と関連研究の調査 (5) 第7回：データの解析 (1) 第8回：データの解析 (2) 第9回：データの解析 (3) 第10回：データの解析 (4) 第11回：データの解析 (5) 第12回：データの解析結果を考察する (1) 第13回：データの解析結果を考察する (2) 第14回：結果・考察から臨床的な意義を見出す (1) 第15回：結果・考察から臨床的な意義を見出す (2)						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前には関連する文献を調べ、授業内で進捗状況を報告できるようにする。(2時間) 授業後には授業内で指導があった点について調べたり、資料をまとめたりする。(2時間)						
授業方法	授業は演習形式である。内容は履修者の進捗状況に応じて柔軟に対応する。						
評価基準と評価方法	平常点70%、成果物30%の割合で評価を行う。 平常点：授業態度、質疑応答、報告の適切さの確認（到達目標1・2の確認） 成果物：自分の研究計画を遂行した結果をまとめた文書（到達目標1・2の確認）						
履修上の注意	研究計画書に基づいて研究を実施することは想像以上に難しい。計画の段階では明らかにならなかった問題が明らかになることもある。分からないことや疑問に思ったところ、問題点については、そのままにせず、自分自身で調べたり、担当教員に積極的に質問してもらいたい。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特論A						
担当教員	大和田 攝子					科目ナンバ-	MP501A
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理臨床の現場に立つ者として是非とも理解しておきたい心の問題、心理的支援の方法、またその際に必要となる倫理やマナーについて学ぶ。						
授業の概要	心理臨床の専門家として門出する院生が、幅広い臨床心理学の分野について一定の知識・素養を身につけることが目的である。特に、臨床心理学的な諸問題を取り上げ、問題となる行動や症状を効果的にアセスメントし、支援に結びつけるための基礎的方法や、その際に必要となる倫理事項やマナーについて理解を深める。						
到達目標	(1) 臨床心理学的諸問題の具体的内容について説明できる。【知識・理解】 (2) 臨床心理学的支援・心理療法の具体的内容について説明できる。【汎用的技能】 (3) 心理臨床家として必要な倫理事項やマナーについて説明できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 前半の授業のすすめ方について（ガイダンス） 第2回 様々な症状論 第3回 臨床心理学的援助の考え方 第4回 発達障害 第5回 統合失調症 第6回 気分障害（大うつ病性障害） 第7回 気分障害（双極性障害） 第8回 不安障害 第9回 強迫性障害 第10回 ト라우マ関連障害 第11回 解離性障害 第12回 摂食障害 第13回 認知症 第14回 パーソナリティ障害 第15回 がん患者と家族の心理的問題						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について臨床心理学や精神医学の関連書にて予習 <2時間> 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理 <2時間>						
授業方法	受講者による発表およびディスカッションを中心としながら適宜解説を行う。						
評価基準と評価方法	発表内容50%、ディスカッションの姿勢や質疑応答など講義への関与度50% 発表内容：与えられたテーマについて十分に理解し、臨床心理学的援助を実践するための知識について説明できることの確認。到達目標の(1)(2)に関する到達度の確認。 授業への関与度：心理臨床家としての動機付けや積極性が十分にあることについての確認。到達目標の(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	1/3以上の欠席者には単位を与えない。						
教科書	特に指定しない。						
参考書	授業中に適宜紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理学特論B						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	MP501B
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理学の基本的な理念と特徴、クライアントを理解することと心理学的支援のあり方との関わり、心理学的支援のさまざまな方法とその進め方、心理学的支援において考えるべき倫理的な諸問題について学ぶ。						
授業の概要	心理臨床家としての基本的な姿勢のあり方、クライアントとの向き合い方、心理学的支援の進め方などについて、心理学的支援において用いられる主要な心理療法を取り上げて、講義、演習、討議を通じて理解を深めることを目指す。						
到達目標	(1) 臨床心理学の基本的な理念と主要な心理学的支援の方法の特徴について説明できる。【知識・理解】 (2) 心理学的支援の実際的な進め方や主要な心理療法の進め方について説明できる。【汎用的技能】 (3) 心理臨床家として身につけることの必要な倫理観のあり方について説明できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション：臨床心理学を学ぶということ -臨床心理学の基本的な理念と特徴- 第2回 心理学的支援を学ぶということ -現代社会の中の心理学的支援- 第3回 心理学的支援と倫理的な諸問題 第4回 心理学的支援とライフサイクル 第5回 心理学的支援と臨床心理学研究 第6回 精神分析的な心理療法の実際 第7回 来談者中心療法の実際 第8回 認知行動療法の実際 第9回 家族療法の実際 第10回 その他の心理学的支援の実際 第11回 さまざまな事例に学ぶ① 精神分析的な心理療法を中心に 第12回 さまざまな事例に学ぶ② 認知行動療法を中心に 第13回 さまざまな事例に学ぶ③ 家族療法を中心に 第14回 その他の心理学的支援の事例に学ぶ 第15回 まとめ：現代社会の中で心理専門職であるということ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回で扱う内容について関連する文献を読んで予習する。＜2時間＞ 授業後学習：授業内容の要点と重要な箇所の確認と整理を行う。＜2時間＞						
授業方法	受講者による発表およびそれに基づくディスカッションを中心とし、適宜必要な講義を行う						
評価基準と評価方法	発表内容30%：与えられたテーマについて十分に理解し、心理学的援助をするために必要な知識や事項をどの程度説明できるかを評価する。到達目標の(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 ディスカッションの姿勢や質疑応答など授業への関与度30%：学ぶ姿勢、他者に関わる積極性を評価する。到達目標の(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 期末レポート40%：心理臨床家としての基本的な心構え、心理学的支援を進めるうえで必要な知識の習得度を評価する。到達目標の(1)(2)(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	授業回数のうち3回以上を欠席した者には原則として単位を認めない						
教科書	なし						
参考書	授業中に適宜紹介する						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理基礎実習						
担当教員	大和田攝子・中村博文・山本竜也					科目ナンバー	MP5020
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜5～6	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理臨床的援助における基本的技能の習得						
授業の概要	<p>心理臨床的援助の基本的技能を身につけることを目的とする。 授業には、次のような内容が含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎講義の受講（前期）</li> <li>・ロール・プレイの実施と検討（前期）</li> <li>・神戸松蔭こころのケア・センターでの相談実務実習（2023年6月～2024年2月）</li> <li>・神戸松蔭こころのケア・センターでの陪席実習（2023年10月～2024年3月）</li> <li>・学外スーパーバイザーとのスーパービジョン実習（ケース担当後～）</li> <li>・ケース・カンファレンスへの参加（通年）</li> </ul>						
到達目標	<p>(1)心理臨床的援助の対象者と適切な関わりを可能とするために必要となる最も基本的な知識、技術、ならびに態度について、説明することができる。（前期）【知識・理解】【態度・志向性】</p> <p>(2)前期で学んだことをもとに、指導を受けながら対象者と関われるようになる。（後期）【汎用的技能】</p>						
授業計画	<p>前期（6月以降は、相談実務実習が開始される）</p> <p>#01：オリエンテーション-基礎実習で何を学ぶか、ケア・センターの利用の仕方</p> <p>#02：基礎講義(1) クライアントとの接し方のポイント</p> <p>#03：基礎講義(2) 家族との接し方のポイント、紹介先や他機関との連携・協働</p> <p>#04：基礎講義(3) 心理療法の構造づくりのポイント</p> <p>#05：基礎講義(4) インテーク面接のポイント</p> <p>#06：基礎講義(5) 心理査定実施のポイント</p> <p>#07：基礎講義(6) プレイセラピーのポイント</p> <p>#08：学外実習事前指導</p> <p>#09：ケア・センター相談実務実習を始めるにあたって</p> <p>#10：ロール・プレイ(1) クライアントとの接し方</p> <p>#11：ロール・プレイ(2) 家族との接し方、紹介先や他機関との連携・協働</p> <p>#12：ロール・プレイ(3) 心理療法の構造づくり</p> <p>#13：ロール・プレイ(4) インテーク面接</p> <p>#14：ロール・プレイ(5) 心理査定</p> <p>#15：ロール・プレイ(6) プレイセラピー</p> <p>後期</p> <p>#16：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(1) 報告者A、他</p> <p>#17：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(2) 報告者B、他</p> <p>#18：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(3) 報告者C、他</p> <p>#19：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(4) 報告者D、他</p> <p>#20：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(5) 報告者E、他</p> <p>#21：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(6) 報告者F、他</p> <p>#22：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(7) 報告者G、他</p> <p>#23：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(8) 報告者H、他</p> <p>#24：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(9) 報告者I、他</p> <p>#25：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(10) 報告者J、他</p> <p>#26：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(11) 報告者K、他</p> <p>#27：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(12) 報告者L、他</p> <p>#28：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(13) 報告者M、他</p> <p>#29：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(14) 報告者N、他</p> <p>#30：相談実務実習、陪席、スーパービジョン実習とその検討(15) 報告者O、他</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前準備学習：基礎講義に先立って教科書の該当箇所を読んでおく。また、神戸松蔭こころのケア・センターでの陪席ケースに関連する文献を検索し、読んでおく。＜2時間＞</p> <p>授業後学習：神戸松蔭こころのケア・センターにおける担当ケースについて、スーパーバイザーにより指示される形式で資料を作成する。＜2時間＞</p> <p>その他：神戸松蔭こころのケア・センターにおける担当ケースについて、カンファレンスでの報告資料を作成する。</p>						
授業方法	講義、演習、実習。						
評価基準と評価方法	実習への参加態度（40%）、各種報告書や作成資料（30%）、カンファレンスでの報告や発言（30%）により評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。						

履修上の注意	スーパービジョン実習にかかる費用については、「臨床心理実習Ⅱ」と合わせて50,000円までは大学が負担する。それ以上の費用は自己負担となる。
教科書	鑪 幹八郎・名島潤慈（編著） 2018 心理臨床家の手引き 第4版 誠信書房 ISBN978-4-414-41643-5
参考書	授業の進行に伴って紹介する。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）						
担当教員	黒崎 優美					科目ナンバ-	MP5030
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理査定（心理的アセスメント）に関する理論と実践						
授業の概要	臨床心理査定（心理的アセスメント）、特に検査法について、代表的な臨床心理検査の基本的知識と実践力を習得します。 互いに被検査者・検査者・記録者となり代表的な臨床心理検査を施行し、そのデータを用いて、採点方法、解釈の仕方、所見の書き方などを学びます。						
到達目標	(1)公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義を理解し、説明できる。【知識・理解】 (2)心理的アセスメントに関する理論と方法を理解し、説明できる。【知識・理解】 (3)心理に関する相談、助言、指導等への上記(1)および(2)の応用ができる。【汎用的技能】 (4)代表的な臨床心理検査について、施行・採点・解釈を行い、所見を作成することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション（授業の進め方） 第2回 臨床心理査定（心理的アセスメント）の定義と倫理 第3回 臨床心理査定（心理的アセスメント）の方法 第4回 臨床心理査定（心理的アセスメント）の効用と限界 第5回 能力検査(1) 第6回 能力検査(2) 第7回 能力検査(3) 第8回 能力検査(4) 第9回 能力検査(5) 第10回 パーソナリティ検査(1) 第11回 パーソナリティ検査(2) 第12回 パーソナリティ検査(3) 第13回 パーソナリティ検査(4) 第14回 パーソナリティ検査(5) 第15回 総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：文献講読、臨床心理検査の施行、採点と結果の整理、所見作成 <2時間> 授業後学習：提出物の加筆修正 <2時間>						
授業方法	講義、演習（グループワーク、ディスカッション）						
評価基準と評価方法	平常点（50%）、提出物（50%）により評価をおこなう。 平常点：授業への参加・貢献。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認 提出物：到達目標(3)(4)に関する到達度の確認						
履修上の注意	授業で取り上げない臨床心理検査についても、積極的に学んでください。						
教科書	なし						
参考書	片口安史著 1987 新・心理診断法—ロールシャッハ・テストの解説と研究 金子書房 ISBN10:4760825487 藤岡新治・松岡正明・片口安史著 1993 ロールシャッハ・テストの学習—片口法スコアリング入門 金子書房 ISBN10:4760840087 その他については適宜紹介します。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理査定演習Ⅱ						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	MP5040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床心理アセスメントの実際						
授業の概要	投映法検査、質問紙検査、知能検査、発達検査などの各種心理検査について、実際の臨床現場での検査実施や臨床事例の検討などを通じて、その臨床的応用の方法について検討する。 また、検査の応用を含む、臨床心理査定について学習する。						
到達目標	(1) 臨床心理アセスメントについて説明できる。【知識・理解】 (2) 必要に応じた適切なテストバッテリーを組み、実施することができる。【知識・理解】 【汎用的技能】 (3) テスト結果を分析、解釈し、所見を作成できる。【汎用的技能】						
授業計画	#01：テスト・バッテリー #02：臨床事例検討(1) #03：心理臨床実践における質問紙検査の利用 #04：臨床事例検討(2) 報告者Aによる事例報告と検討 #05：臨床事例検討(3) 報告者Bによる事例報告と検討 #06：心理臨床実践における知能検査の利用 #07：臨床事例検討(4) 報告者Cによる事例報告と検討 #08：臨床事例検討(5) 報告者Dによる事例報告と検討 #09：心理臨床実践における発達検査の利用 #10：臨床事例検討(6) 報告者Eによる事例報告と検討 #11：臨床事例検討(7) 報告者Fによる事例報告と検討 #12：心理臨床実践における投映法検査の利用 #13：臨床事例検討(8) 報告者Gによる事例報告と検討 #14：臨床事例検討(9) 報告者Hによる事例報告と検討 #15：まとめ、レポート提出						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習(2時間以上)：心理臨床で用いられる各種心理検査について、その理論や実施方法を学習しておく。 また、実習施設(神戸松蔭こころのケア・センター、他)で心理検査を実施した場合には、結果をまとめ、授業内で報告できるよう準備しておく。 授業後学習(2時間以上)：授業で検討した各種検査について、あるいは報告書の書き方について、実際に検査の整理・分析・解釈を行うと共に、文献による学習を深める。						
授業方法	演習形式。 授業において、小レポート(その回の授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、質問、感想)、検査データのまとめ、検査所見等の提出を求める場合がある。						
評価基準と評価方法	授業内での課題(50%)：小レポート、検査データのまとめ、検査所見等の課題を課す。【到達目標(1)～(3)のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、課題によって異なる】 検査レポートの作成と報告(50%)：実習機関で心理テストを実施し、検査結果を分析し、検査レポートを作成し、報告を行う。【到達目標(2)、(3)の到達度確認】						
履修上の注意	臨床心理検査の検討が中心となる授業なので、欠席は原則として認めない。						
教科書	なし。						
参考書	必要に応じて、適時紹介する。						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅰ）						
担当教員	坂本真佐哉・小松貴弘・黒崎優美					科目ナンバ-	MP6010
学期	通年／Full Year	曜日・時限	土曜1～5	配当学年	2	単位数	6.0
授業のテーマ	心理に関する支援を要する者等に対する支援の実践						
授業の概要	学内施設（神戸松蔭こころのケア・センター）ならびに学外施設において、実習施設の実習指導者や担当教員の巡回による指導を受けながら、臨床心理学的な支援の実践について学ぶ。						
到達目標	<p>①心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能を身につける。（1）コミュニケーション、（2）心理検査、（3）心理面接、（4）地域支援【知識・理解】【汎用的技能】</p> <p>②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成をすることができる。【知識・理解】【汎用的技能】</p> <p>③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチができる。【汎用的技能】【態度・志向性】</p> <p>④他職種連携及び地域連携ができる。【汎用的技能】【態度・志向性】</p> <p>⑤公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解をもてる。【知識・理解】【態度・志向性】</p>						
授業計画	<p>・前期</p> <p>#01：学内施設ならびに学外施設における実習（1）  #02：学内施設ならびに学外施設における実習（2）  #03：学内施設ならびに学外施設における実習（3）  #04：学内施設ならびに学外施設における実習（4）  #05：学内施設ならびに学外施設における実習（5）  #06：学内施設ならびに学外施設における実習（6）  #07：学内施設ならびに学外施設における実習（7）  #08：学内施設ならびに学外施設における実習（8）  #09：学内施設ならびに学外施設における実習（9）  #10：学内施設ならびに学外施設における実習（10）  #11：学内施設ならびに学外施設における実習（11）  #12：学内施設ならびに学外施設における実習（12）  #13：学内施設ならびに学外施設における実習（13）  #14：学内施設ならびに学外施設における実習（14）  #15：学外実習報告会</p> <p>・後期</p> <p>#16：学内施設ならびに学外施設における実習（15）  #17：学内施設ならびに学外施設における実習（16）  #18：学内施設ならびに学外施設における実習（17）  #19：学内施設ならびに学外施設における実習（18）  #20：学内施設ならびに学外施設における実習（19）  #21：学内施設ならびに学外施設における実習（20）  #22：学内施設ならびに学外施設における実習（21）  #23：学内施設ならびに学外施設における実習（22）  #24：学内施設ならびに学外施設における実習（23）  #25：学内施設ならびに学外施設における実習（24）  #26：学内施設ならびに学外施設における実習（25）  #27：学内施設ならびに学外施設における実習（26）  #28：学内施設ならびに学外施設における実習（27）  #29：学内施設ならびに学外施設における実習（28）  #30：学外実習報告会</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：支援の対象者や支援の内容に関して文献等で学習する <1時間> 授業後学習：毎回の実習の後に実習記録を作成する <1時間>						
授業方法	講義、演習（グループワーク、プレゼンテーション）、実習・フィールドワーク、実技						
評価基準と評価方法	実習への参加態度（実習指導者のコメント、巡回指導時や事前事後指導時の様子、実習報告会での発表とその質疑応答）（50%）：到達目標①③④⑤に関する到達度の確認 各種報告書や作成資料（実習記録、実習報告書、実習報告会での発表資料等）（50%）：到達目標①②⑤に関する到達度の確認						
履修上の注意	実習を行う施設はいずれも実際の業務を行っている施設であり、そこで実際の支援が行われていることに留意すること。 学外施設への交通費については、自己負担となる。						

教科書	なし
参考書	適宜紹介する。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理実習II						
担当教員	坂本真佐哉・小松貴弘・黒崎優美					科目ナンバ-	MP6020
学期	通年／Full Year	曜日・時限	木曜1～2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	心理臨床的援助における応用的技能の習得。						
授業の概要	学内実習施設（神戸松蔭こころのケア・センター）において、相談実務実習、および陪席実習を行う。学外スーパーバイザーとのスーパービジョン実習を行う。ケース・カンファレンスに参加し、事例報告および討論を行う。担当事例について、事例論文を執筆する。						
到達目標	①心理臨床的援助の対象者との関わりやスーパービジョン等の指導を通して学んだ内容について、専門的な観点に基づきまとめ、口頭および論文の様式で報告することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ②討議を通じて、互いの理解を深めることができる。【汎用的技能】【態度・志向性】						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (1)</p> <p>第3回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (2)</p> <p>第4回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (3)</p> <p>第5回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (4)</p> <p>第6回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (5)</p> <p>第7回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (6)</p> <p>第8回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (7)</p> <p>第9回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (8)</p> <p>第10回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (9)</p> <p>第11回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (10)</p> <p>第12回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (11)</p> <p>第13回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (12)</p> <p>第14回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (13)</p> <p>第15回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (14)</p> <p>第16回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (15)</p> <p>第17回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (16)</p> <p>第18回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (17)</p> <p>第19回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (18)</p> <p>第20回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (19)</p> <p>第21回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (20)</p> <p>第22回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (21)</p> <p>第23回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (22)</p> <p>第24回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (23)</p> <p>第25回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (24)</p> <p>第26回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (25)</p> <p>第27回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (26)</p> <p>第28回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (27)</p> <p>第29回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (28)</p> <p>第30回 相談実務実習、陪席実習、スーパービジョン実習とその検討 (29)</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：臨床心理学関連の事例研究やその他の研究論文、専門書などを読み、さまざまな事例への対応および専門機関における実践について学ぶ。（1時間）</p> <p>授業後学習：スーパーバイザーの指示にしたがい、スーパービジョンを受けるための資料を作成する。（1時間）</p> <p>その他：ケース・カンファレンスにおける担当ケースの報告資料を作成する。担当ケースに関する事例論文を作成する。</p>						
授業方法	演習、実習（ディスカッション、プレゼンテーション、実習・フィールドワーク）。						
評価基準と評価方法	<p>実習への参加態度（40%）：到達目標(1)に関する到達度の確認。</p> <p>各種報告書や作成資料（30%）：到達目標(1)に関する到達度の確認。カンファレンスでの報告や発言（30%）：到達目標(2)に関する到達度の確認。</p>						
履修上の注意	スーパービジョン実習にかかる費用については、「臨床心理基礎実習」と合わせて50,000円までは大学が負担し、それ以上の費用は自己負担となる。						

教科書	なし。
参考書	適宜紹介する。

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理面接特論I (心理支援に関する理論と実践)						
担当教員	中村 博文					科目ナンバ-	MP5050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理臨床面接における基礎的技法の習得。						
授業の概要	さまざまな心理臨床理論とその方法について学ぶとともに、臨床心理面接を行うための基本的態度および基礎的技法を、応答訓練、ロールプレイ、試行カウンセリングなどを通じて、体験的に学習する。						
到達目標	(1) 力動論に基づく心理療法の理論と方法について説明できる。【知識・理解】 (2) 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法について説明できる。【知識・理解】 (3) その他の心理療法の理論と方法について説明できる。【知識・理解】 (4) 心理に関する相談、助言、指導等への上記①から③での応用について考えることができる。【汎用的技能】 (5) 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整を考えることができる。【態度・志向性】 (6) 試行カウンセリングを実施し、記録としてまとめ、報告することができる。【汎用的技能】						
授業計画	#01: オリエンテーション/心理臨床家としての基本的態度 #02: 心理支援に関する理論と方法-さまざまな考え方と方法 #03: 応答訓練(1)-応答技法 #04: 応答訓練(2)-紙上応答/試行カウンセリングの準備 #05: 応答訓練(3)-聴取応答#06: 応答訓練(4)-ロールプレイ #07: 試行カウンセリングの検討(1) 報告者Aの試行カウンセリング事例検討 #08: 試行カウンセリングの検討(2) 報告者Bの試行カウンセリング事例検討 #09: 試行カウンセリングの検討(3) 報告者Cの試行カウンセリング事例検討 #10: 試行カウンセリングの検討(4) 報告者Dの試行カウンセリング事例検討 #11: 試行カウンセリングの検討(5) 報告者Eの試行カウンセリング事例検討 #12: 試行カウンセリングの検討(6) 報告者Fの試行カウンセリング事例検討 #13: 試行カウンセリングの検討(7) 報告者Gの試行カウンセリング事例検討 #14: 試行カウンセリングの検討(8) 報告者Hの試行カウンセリング事例検討 #15: まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	事前準備学習(2時間以上): 教科書の該当部分を読んでおく。 授業後学習(2時間以上): 授業で学んだことの要点を振り返り、整理しておく。また、応答訓練、試行カウンセリング実施後は、逐語録の作成等必要な作業を行う。						
授業方法	講義。ただし、演習実習的な内容を含む。 受講者は、試行カウンセリングを行い、授業内で発表を行わなければならない。また、その発表に基づいて、討論を行う。ただし、様々な事情によりクライアント役を確保できない場合には、ロールプレイをもってそれに代えることを許可する場合もある。						
評価基準と評価方法	授業内での課題(30%): 心理支援に関する資料の作成や、応答技法の練習などの課題を課す。【到達目標(1)~(5)のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる】 小レポート(30%): 授業において、小レポート(授業で学んだ内容に関する問いについて考えた回答、および質問、感想)の提出を求める。【到達目標(1)~(4)のいずれかについての到達度確認。どの目標の確認かについては、授業回によって異なる】 試行カウンセリングの実施と報告(40%): 試行カウンセリングを実施し、逐語録とまとめ記録を作成し、報告を行う。【到達目標⑥の到達度確認】						
履修上の注意	応答訓練、および試行カウンセリングの検討が中心となる授業なので、欠席は原則として認めない。 授業計画は、受講者が8名の場合を想定している。したがって、受講者数によって授業計画の内容ならびに回数に変化することがある。						
教科書	鑪 幹八郎 1977 試行カウンセリング 誠信書房 ISBN:978-4414401295						
参考書	Ivey, A. E. 福原真知子・相山喜代子・國分久子・楡木満生(訳編) 1985 マイクロカウンセリング “学ぶ-使う-教える”技法の統合: その理論と実際 川島書店 ISBN:978-4761003296 土居健郎 1992 新訂・方法としての面接-臨床家のために 医学書院 ISBN:978-4-260-11769-2 小松貴弘・渡辺亘・中村博文 2019 時間のかかる営みを、時間をかけて学ぶための心理療法入門 創元社 ISBN:978-4422117218						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床心理面接特論Ⅱ						
担当教員	小松 貴弘					科目ナンバ-	MP5060
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	心理臨床面接におけるクライアントやセラピストの動きを理解する基礎的な視点の習得						
授業の概要	心理臨床面接の基本的な枠組みと、そこで生じること、それらが支援の実践にどのように結びつくのかを学ぶ。また、面接の場で起きることについて、クライアントの立場、セラピストの立場、両者の関係などのさまざまな視点から理解に努めることを学ぶ。さらに、問題とクライアントの適切な理解に基づいた適切な支援計画の立案について、そして面接を進めるうえで生じるおそれのある倫理的問題とその対応について学ぶ						
到達目標	1. 心理学的支援における心理臨床面接の役割と基本的なルールについて説明できる。【知識・理解】 2. 適切なフォーミュレーションに基づいて、面接を通じた支援の方針と進め方を立案することができる。【汎用的技能】 3. 心理臨床面接を進めるうえで考慮すべき倫理的問題とその解決のために取るべき行動について説明できる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回：オリエンテーション 心理臨床家が行う援助とは 第2回：心理面接を構成する基本要素 第3回：心理面接における基本ルールとその意味 第4回：心理面接における専門職としての倫理 第5回：心理療法理論と面接が果たす役割 第6回：インテーク面接の意義と進め方 第7回：ケースフォーミュレーションと面接契約 第8回：面接中期の過程で起こること 第9回：面接の中断と終結 第10回：プレイセラピーについて 第11回：プレイセラピー事例の演習 第12回：保護者面接の意義と進め方 第13回：保護者面接事例の演習 第14回：コンサルテーションの意義と進め方 第15回：まとめとふりかえり						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回のテーマについての予習、および事前に配布資料がある場合にはそれを丁寧に読み込むこと。＜2時間＞ 授業後学習：各回の授業について、自身の中で疑問が残った点、未消化な点などについて、追加の調べなどを行うこと。＜2時間＞						
授業方法	講義および演習。 受講生には発表を割り当てて、事前の調べに基づいてレジュメを作成しての報告を行ってもらい、それに基づいた質疑とディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業への参加・貢献度（30%）：積極性および他の受講生と対話を心がける姿勢を重視する。到達目標1, 2, 3の達成度確認。 割り当てられた報告内容と質疑に対する応答（30%）：報告内容の理解度と作成資料の適切さ、質疑への応答の真摯さを重視する。到達目標1, 2, 3の達成度確認 期末レポート（40%）：授業テーマについての理解度とそれを自身のあり方に関連づけて内省する姿勢を重視する。到達目標1, 3の達成度確認						
履修上の注意	授業回数のうち3回以上を欠席した者には原則として単位を認めない						
教科書	なし。必要に応じて、授業内にて資料を配布する。						
参考書	鑪幹八郎・名島潤慈（編著） 2018 心理臨床家の手引き [第4版] 誠信書房 ISBN:978-4414416435 小松貴弘・中村博文・渡辺亘 2019 時間のかかる営みを、時間をかけて学ぶための心理療法入門 創元社 ISBN:978-4422117218						

科目区分	【修士】心理学専攻科目						
科目名	臨床薬理学特論						
担当教員	坂上 元祥・小野 久江					科目ナンバ-	MP5230
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	1~2	単位数	2.0
授業のテーマ	公認心理師・臨床心理士に必要な臨床薬理学と精神疾患治療薬の知識を学ぶ。						
授業の概要	本学教員（医学部薬理学分野客員教授）と外部講師（精神科医）による講義である。本学教員は臨床薬理学の総論と病態別の薬物投与方法について講義をする。外部講師は抗精神病薬や抗うつ薬など精神疾患治療薬の臨床薬理と病態別の投与方法などについて教授をする。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物の投与方法や相互作用、患者の病態などで薬物の濃度や効果が変化するを理解する。【知識・理解】</li> <li>2. 精神疾患治療薬について投与目的や効果・副作用などを理解する。【知識・理解】</li> <li>3. 症状・状態と治療薬の関係を理解し、カウンセリングなどで実践できる。【技能】</li> <li>4. 精神科の医療に必要な薬物に関する知識を習得し、チーム医療に参加できる。【態度・志向性】</li> </ol>						
授業計画	<p>オムニバス科目（坂上 元祥：7回担当、小野 久江：8回担当）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 臨床薬理学 1：臨床薬理学とは、薬物作用のメカニズム（坂上 元祥）</li> <li>2 臨床薬理学 2：薬物動態、治療薬物モニタリング（TDM）（坂上 元祥）</li> <li>3 臨床薬理学 3：薬物相互作用、薬物有害反応（坂上 元祥）</li> <li>4 臨床薬理学 4：臨床研究（ヒト研究）とEBM、薬物開発（坂上 元祥）</li> <li>5 精神疾患治療薬の臨床薬理 1：精神治療薬について（小野 久江）</li> <li>6 精神疾患治療薬の臨床薬理 2：抗うつ薬（小野 久江）</li> <li>7 精神疾患治療薬の臨床薬理 3：抗不安薬（小野 久江）</li> <li>8 精神疾患治療薬の臨床薬理 4：抗精神病薬（小野 久江）</li> <li>9 精神疾患治療薬の臨床薬理 5：双極性障害治療薬（小野 久江）</li> <li>10 精神疾患治療薬の臨床薬理 6（小野）：認知症治療薬（小野 久江）</li> <li>11 精神疾患治療薬の臨床薬理 7（小野）：睡眠薬（小野 久江）</li> <li>12 精神疾患治療薬の臨床薬理 8（小野）：ADHD治療薬（小野 久江）</li> <li>13 臨床薬理学 5：病態時の薬物療法（妊産婦・乳幼児）（坂上 元祥）</li> <li>14 臨床薬理学 6：病態時の薬物療法（高齢者・腎不全）（坂上 元祥）</li> <li>15 臨床薬理学 7：病態時の薬物療法（肝不全・心不全）（坂上 元祥）</li> </ol> <p>※ 外部講師のスケジュールによっては講義の日程や順序を変更することがある</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>事前学習：講義内容の確認し、講義に必要な資料を準備する（1時間）</p> <p>事後学習：講義内容を復習し、レポートの作成を行う（3時間）</p>						
授業方法	<p>講義形式、一部ゼミ形式（討論）になる</p> <p>※ Zoom になる場合は教務システム（manaba）を使って連絡する</p>						
評価基準と評価方法	<p>講義での討議内容(50%)とレポート(50%)で評価する。評価基準は講義の到達目標(1~4)の到達度とする。</p> <p>※ 期限までにレポートの提出がない場合は欠席扱いとする。</p> <p>提出が遅れる事情がある場合、締切までに連絡すること。（締切後は考慮不可）</p>						
履修上の注意	<p>単位取得には2/3以上の出席が必要である。</p> <p>※ 期限内に講義レポートを提出することで出席とする（manaba から提出する）</p> <p>20分以上の遅刻は欠席扱いとする（交通遅延は除く）</p>						
教科書	<p>なし（シラバス作成時には適切な教科書が見つかっていない）</p> <p>集中講義開始までに教科書が見つければ manaba を使って連絡する</p> <p>必要に応じて資料を配布する予定（manaba から）</p>						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本当にわかる精神科の薬はじめの一步（改訂版） 稲田 健 編集 羊土社、2018年、3,300円（+税）、ISBN-13：978-4758118279</li> <li>・ 薬理学電子教科書（編集管理：神戸大学名誉教授 久野高義） 使用は無料だが、内容はかなり専門的である <a href="https://drugacademy.atlassian.net/wiki/spaces/PHARMACOLOGY/overview">https://drugacademy.atlassian.net/wiki/spaces/PHARMACOLOGY/overview</a></li> </ul>						